
なんだかんだで準最強

紫希 杭也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんだかんだで準最強

【Nコード】

N9640S

【作者名】

紫希 杭也

【あらすじ】

俺は鈴木 京「ケイ」

何処にでもいる高校一年生だ

そんな俺はある日神様に出合った……

そんな俺が

何処にでもいる努力型最強ヒーローになっていく物語、

に巻き込まれるチート能力系準最強になる物語だ

最強は王道、準最強は平凡

俺は鈴木京「ケイ」

何処にでもいそうな日本の高校一年生だ

そんな俺は神様に半強制的に出合った

カミサマ「いや〜マジゴメン、間違えて殺しちゃった」

こんな場合俺は、ふざけんな！みたいな感じで突っ掛かったり

え？もう一度言ってくれませんか？（黒笑）とか、

ふむ、つまりこれから俺は異世界へ〜（略）みたいな事いえばいい
のか？

カミサマ「アハハ〜君みたいなこと言う人も数人いたよ〜」

やっぱり心も読めるのか

まあいい、会話が楽になる、とでも言っておこう

カミサマ「う〜ん結構珍しいタイプだね」

煩いな、どうせ全員に同じ事言ってるんだろ

カミサマ「まあね」

『ひっ』

カミサマ「もう〜解ってるくせに〜」

……つまり、俺にチート異世界転生をしるんでも？

カミサマ「Yes!」

『なら、能力はめだか○ツクスの「全てを無かった事にする」能力と「押し付ける」能力、「何処にでも何時からでもいれる」能力、もちろん強化版で使いこなせるようにした後、格好イイからネジ…のかわりに戦闘用シャープペン出せるように』

神様だし大丈夫だろ

カミサマ「ええ〜チート過ぎない?」

どうせ他の奴は漫画の技全部とか不老不死とかだろ?

カミサマ「まあそんなんだけど、自分より強い人がいることを想定内にしてるのは、君が初めてだよ」
絶対嘘だな

『そんな事より、速く転生させてよ?』

カミサマ「せっかちななあ、ま、いつか…じゃあね」

「グサツ…」

『えっ…ゴホッ』

転生方法、殺すタイプなのかよ…

転生者はしよたこん？

今日は転生してから五年目
俺は今五歳だ

俺が転生した先は剣と魔法のファンタジーで、ファンタジーには貴族、平民、奴隷が付き物だ
俺は平民だけど

まあなんと言つか、それなりに裕福な家だ
そこで今日は転生して丁度五年目、つまり誕生日
五歳の誕生日を迎えた俺は家族で魔法都市にプレゼントを買いにきた
その都市には俺の、人生の分岐点があった…

……結局何が言いたいのかと言うと、
何か誘拐されました……
「何処にでも何時からでも」いれる能力があるから別にだから？っ
て感じ何だけど
一番の問題はやっぱりさあ…

？「おっ目え覚ましたか？」

助けてもらっちゃったんだよねえ
転生者に……

20歳ぐらいでさあ、俺は〇〇の実の能力者だ！って叫んでたよ…
なにこの痛い人…
関わりたくなかったな〜

『んっ…おじさんだあれ？』

？「おいおい俺はおじさんじゃなくてお兄ちゃんだぜ？」

「ぜ」ってキモい…しかもお兄ちゃんかよ
てか名前を言えや

『お兄ちゃん？お兄ちゃんだあれ？』

？「俺は…紫炎「シエン」だ」

『シエン兄ね！』

うわぁ、シエンとかぜってー厨二病だよこいつ
てか、我ながらシエン兄って呼び方キショイな

『あんね！僕ね、ケイって言うの！』

少し舌足らずだが、今俺は子供特有の高い声、可愛い顔（普通だが、
子供とは可愛いものだ）

いくら見た目が子供でも、転生者と呼ばれたら殺されたりするかもし
れない

俺の方が強いけどな

シエン「そうか、ケイ、親は？」

うーん…これってフラグだよな？

『いない…』

まあ、今「いなかった」事にしたんだけどな
キモいけど……

シエン「そっか…なら俺と一緒に来るか？」

うわ、誘拐犯みたい

『…うん！』

なんか、楽しめそうな気がするしな

転生者はしよたこん？（後書き）

ケイ君五歳です

普通に可愛い男の子で

黒髪黒目、目は若干死んでます

準最強は隻眼

シエンとか言う厨二転生者に引き取られてから数ヶ月
最初の憐れみを帯びた目は殴りたくなつたが
まあ、あのキモさには慣れてきた

シエンは旅人らしいが俺が居るので片田舎に留まっている
田舎なのは俺に何かおこらないか心配だからだろうが、
魔物の被害が多いので余り意味が無い気がする……

まあどつちにしろ俺には関係無い
無駄な心配ご苦労様だな

……後もう一度何か、…魔物に襲われるとかがあつたら
自分の身を守るように、なんて何処かの少年漫画みたく、鍛えら
れるんじゃないか？

……絶対いやだ、
辛いのも、苦しいのも、痛いのも大嫌いだ

………つて、
今の俺には、それこそ関係無いな、うん
シエンは能力使わなくてもそれなりに強いし
将来ギルドとかで、理由も無く強かつたら転生者ってバレそうだしな
魔物かあ……都合よくそこら辺に現れないかなあ

『……………』

俺は今……………

マモノ「グガガア……………」

でっかい魔物の前です

はあ、何て言うご都合主義

ヤバくないか？……………まあ大丈夫だろ……………うん、多分、

『うわああああ！！』

全力ダツシユ！

死ぬ気でダツシユ！！

マジで無い、ほんと、

「ガッ」

……………何なんだよ

こんな時こけるとか、

『えっ……………あっ』

言っとくが、恐怖心は誰かに「押し付け」だから
怖がってんのは表面だけな？

……………本当は少し怖いよ！悪いか！？

『シエン兄い！！』

あっ、ヤバい、「兄い」は無いわ、鳥肌立つ

シエン「ケイ！」

うっ……

ヤバい、左目やられた…

ある意味よくある展開だよなあ、……

シエン「ケイ！大丈夫か！？」

大丈夫じゃねえよ、見りゃ解んだろーが

ああ、

氣い、失いそー……

〔シエンSide〕

今日はギルドに行ってきた

チートの御蔭でギルドの仕事はすぐに終わった

俺は今、数ヶ月前からケイと言う少年を育てている

やっぱり子供は可愛いものだよな

何て言うか、前世の？俺の愛読書のキャラみたいにそのうちオヤジとか呼ばせてみたいな……

って俺成長（老化）止まってっけど…

〔うわああー！〕

ん？

何か聞こえたな？最強の肉体の御蔭か耳はいい

「シエン兄い！」

っ！！

「ケイ！」

魔物か！？

チツ…死ね！

「ゲシャツ」

「ケイ！大丈夫か！？」

畜生、俺は…自分が、自分だけが強いと…

…？

そうだ！ケイも強くしよう

ケイを強くして自分の身も、

……他の誰か…大切な人も護れるように……

「シエンSide終了」

準最強は隻眼（後書き）

隻眼にしちゃいましたが

顔の傷は1、2年で消えます（魔法か悪〇の実パワー）

目はケイ君の何と無く、という理由で見えないままです

最強には称号、準最強には学生証を

俺が魔物に襲われてから十年たった
面倒臭いし、不便だが俺は隻眼のままだ
さすがに能力を使うとばれそうだし…

…なんてな、別に能力使ってもばれねーし
まあなんつーの？
隻眼って何か格好よくね？そんなかんじの、結構適当な理由でなん
だけど

…さてと

そんな前置きはともかく、俺は今や15歳
あのあと思ったとおり、俺は鍛えられて、ギルドにもシエンの弟子
という事で

Aランクを持っている
ランクは下から
G、F、E、D、C、B、A、S、X、Z
がある

聞いた所Zランク以上の称号持ちが五、六人程いて
さらにその上をいく

ギルドとは別の四天王、噂だが、裏四天王というものもいるらしい

『…ハア』

神様よお…競争率高くねえか？

俺は、この世界が住みづらくても「何処にでも何時からでも」いれ
る能力の強化版で

別の異世界にも行けたりするが
もしかしたら他の世界にも、転生者がいて
次元を操る能力とか、何でも召喚できる能力とか

……俺と、同じ能力を使うとか……
まさか、無いよな……

アレ？
今のフラグじゃね？

……まあいいや
そろそろ、現状を見よう

俺はギルドAランクだ、そして今、俺は依頼を請けている

シエン「どうだケイ？請けてくれるか？」

シエンからの……

ランクはA、内容は

学校に通って協調性を身につける事……

現実逃避もしたくなる内容だろ？

アレか？

ラブコメとかすればいいのか？大体なんだよ協調性って

俺の人格を全面否定してんのか？

ハア……

まーいつか、アレだろ？

喜劇で悲劇な最高の茶番を演じればいいんだろ？

要は、楽しめばいいんだろ？

やってやるーじゃん

『はいっ！やらせていただきます！』

でも、

俺が周りの誰かのおかげで人間性に目覚める事も

俺が恋をする事も

俺が心を許す事も

俺が改心する事もなく

ただ、

俺が楽しむためだけにやらせてもらおうよ？

最強には称号、準最強には学生証を（後書き）

しばらく、もしかしたらもう二度と

シエンさんが出ないかも知れません…

出すとしたらどんなシチュエーションで出しましょうか……？

準最強は可愛い腹黒君？

俺は今、学校の前にいる

さらに詳しく言えば王立の馬鹿でかい学校の、だな
アレか？

俺みたいな田舎者に対するイジメか？

まあいい、速く学校長に合わなくては…

[?Side]

嗚呼、イライラする

なんで最強の四天王の称号を持つ俺が
学校なんかに通うんだよ

なんてな、あれだろ？

俺は此処で、ツンデレツインテールの美少女と

清楚な貴族のお嬢様と

男装短髪いじられっ娘に

愛されて、

復讐系努力家のクールと

可愛い系腹黒に

尊敬されて

世界を救うんだらう？

まさに王道じゃないか

楽しみだなあ…

「すみません…」

…？

「なんだ？」

「あの、学校長室って何処にあるんですか？」

道が知りたいだけか…

…顔はまあ、可愛い部類に入るほうだな…

「あの…？」

「ああ、済まない…」

学校長の部屋に用があるのかい？連れて行ってあげようか？可愛い娘なら大歓迎だよ」

さて、どうでるかな？

「アハハ…目、悪いか頭湧いてるんじゃないですか？」
ニッコリ

「ははっ、酷いなあ、学校長室はこっちだよ」

ナイスだ

顔はちよつとアレだけど

腹黒だし

楽しみだなあ…

「？Side終了」

学校でのキャラは、腹黒にしたのに
なんか、罵られてにやけてた変態ヤローに気に入られたし
最悪だ…

「コンコンツ、ガチャ」

『失礼します』

「ああ、ケイ君か、どうしたんだい？入学式は明日だよ？」

んなの知ってるわボケ、

『いえ、入学する前にもう一度挨拶しておこうと思いましたが…この
たびは、入学を許可していただき、有り難うございました』

これっぽちも有り難かねーけどな
てか、別に裏口入学とかじゃねーからな？

「いやあ、相変わらず律儀だねえ」

うぜえよ、キャラつくってんだよバーカ

『有り難うございます、それでは今日は挨拶に来ただけなので、お
忙しい中すみませんでした』

「ハハハじゃあね、ケイ君なら何時でも、遊びに来てくれてかまわ

ないよ」

うざい、黙れ、バーカ、ハゲろ、ちくしょー

……大人げなかったな、うん（一応三十路いってるし、いや、俺の心は今でも中二の夏だ！）
なぐんかあの人嫌なんだよね
個人的な問題なんだけど

『お心遣い感謝します、失礼しました』
「ガチャ」

……ハア、早く家に帰ろう
もう疲れたよ、
主に精神的にな

準最強は可愛い腹黒君？（後書き）

学園長ですが…

ケイ君に異常に嫌われてます…

ケイ君が嫌う理由は、生理的に嫌だからです（笑）

学園長は多分、もう二度と出ない一発キャラです

準最強の超直感？

さてと

今日は待ちに待った、入学式だ

今日に限って何故か、なぐんか嫌な予感がしたりするんだよね

まさかこの俺にも超直感が！？

.....

脳内エア会話って寂しいな...

てか此処は普通、神様が理不尽にあらわれて

「何馬鹿な事言ってるのさ...？」

「うわああ！いつ、何時から聞いてたんだ！？」

とかなるよな？

んで理不尽に能力アップ

もしくは世界を救えとか

.....つてなんか、俺に友人がいないみたいだから、エア会話だけは
やめよ.....

...実際友人なんていないんだけどな

？「あつ！君はあの時の」

俺？

相手は...イケメン男子...

俺はツインテールでも、パンをくわえて登校したことも
ましてや、知らない誰かにぶつかっていちやもんつけた事も無いぞ？
……むしろ、女ですらないがな！

『えつと…どちら様で？』

？「アハハ！酷いなあ、俺はセンリ！お前、迷子になってた奴だろ
？」

迷子…？

『ああ、あの時の変態か…』

センリ「変態って！？酷いよ！」

っ！！

まさか読心術！

…なんてね、よくある

声にでてたよ？だろ？

べ、別に驚いてなんかないんだからねっ！

…うえ、キモい……

センリ「ところで、お前名前は？」

おい、ナンパかよ

取りあえず…

『マイケル・ジャクソンです』

…あ、やべえ、万が一にもこいつが転生者だったらどうしよう…

センリ「マイケルだね！ヨロシク！」

ヤバい、何コイツ信じちゃったの？馬鹿なの？死ぬの？

『……………』

よし無視しよう

なんていい考えなんだ、自分に惚れ惚れするよ

センリ「無視かい？まあまた会っただろ、またね？」

できれば、もう二度と会いたく無いな…

やっぱり、俺の勘は正しかった…

まさか…やっぱり超直感が！？

はあ……………教室行こ

今、俺は教室前にいるのだが…

クラス表に、今さっき知りたくもなかったけど、知ったばかりの名前が書かれてた気がするのだが…

センリ「やあ、来るのが遅かったね！」

ちくしょー、お前同じクラスだって知ってただろ

お前を今すぐに、なかつた事にしたいよ

『……………』

しかもさあ…

？「……………」

なんか、お前に話かけられたせいで

桃髪ツインテールっ娘にガン見されてんだけど…

『……………死ぬ（ボソツ）』

センリ「えっ！？酷くね！？」

……………ヤバイコイツ転生者じゃね？

あきらかにこの距離（十？ぐらい？）で今の音量は普通聞こえねえ
だろ…

てか、さっき俺名前マイケル・ジャクソンって言ったよな？
えっ？何？マイケル知らないとかコイツ本気で何なの？

？「……………ねえ、」

うおっ！桃髪から話し掛けられた

『……………なんですか？』

？「私はレイア、貴方センリの何？友達？」

あれ？なんかむっちゃ冷静だ

君、ツンデレちゃうのん？

あゝ……お嬢様系のクーデレツインか…？

『昨日、道を尋ねただけの赤の他人です』

レイア「ふうん…解ったわ…」

センリ「ええー！他人だなんて！俺達立派な友達だろ」

「ガラッ」

センセイ「お前等々席付け」

先生、ナイスタイミングだな

センセイ「あゝ、まずは入学おめでとう、じゃ、取りあえず軽い自己紹介始めるぞ」

俺はハルマ・アリアだ

ハルマ先生と呼べ、次！」

自己紹介とか面倒だな

てか俺、ファミリアーネーム無いんだけど

…取りあえず周りの皆を観察してみるか

センリ「はゝい！俺はセンリ・リュウザキ！ヨロシクな！」

デスオートかよ

誰かゝ、○神月呼んでこゝい

ってか、モロ日本名じゃん

馬鹿だなコイツ

レイア「私はレイア・シルヴィアーナ、気軽にレイアと呼んで下さい……」

気安くすんなオーラ出しといてそれかよ……

あ、そろそろ俺だ

普通に目立たないようにしよう……

『僕はケイ、家庭の事情でファミリーネームはありません……ヨロシクお願いします』

センリ「えっ？」

……ヤバいちょっと、教室の雰囲気重くなってるね？
てかセンリ、こっち見んなよ
俺ったら、照れちゃう

……うわ、鳥肌たつ……、

センセイ「あ、そっか、辛かったな、はい次々」

お前は軽すぎるはボケ！棒読み過ぎるだろ、なんか苛つく

あーもう……

俺、知らね

……
ええーっと

まあなんやかんやで、自己紹介終了、
俺以外にも、空気重くしてなにコイツ、関わりたくねーって思った
奴とか

お嬢さんいくつ？学校間違えたの？って聞きたくなるロリっ娘とか
いた気がするけど

無視だ、俺に関わんな

楽しむ前に過労死しそうだ

まあ、戯言だけど

取りあえず今日は自己紹介だけでおしまいだ
早く帰ろう

ついでに言っと、俺は学校に通うため

一人暮らし中だ

一応寮もあるのだが…

なんか朝、押しかけられて仲良く登校とか

ドッキドキ 見知らぬ女の子に部屋を貸そう！

とかなんか、俺の超直感？が危ないことを語りかけて来るから止めた
男の夢のハーレム？俺には二次現の嫁がいるんだよ！

……俺、この依頼が終わったら会いに行くんだ、

人はこれを死亡フラグと呼ぶ（笑）

まあ、しばらく人生を楽しんで色々達観出来たころにでも会いたい
なあ…

何故達観してからかと言うと、たんにクール系、大人びてると素で
思われたいからだ！

…っと、変た…センリに偽名の事問いただされる前に
ととと帰っちやわねーとな

準最強の超直感？（後書き）

ケイ君、超直感？が目覚めました（笑）

…死ぬ気になっても何も出来ませんが

最強は無限大、準最強は平均（前書き）

ファンタジー系にはよくある、王道イベントを入れてみました

最強は無量大、準最強は平均

次の日

昨日の偽名の事についてセンリに聞いたただされた事は言つまでもないが…

まあそんな事はどうだっていい

今は授業中だ

何の授業かと詳しく言つならば、学園ファンタジー物には必ずある授業

言わば王道イベント…

魔力測定だ

魔力測定と言つても、水晶に手をかざすだけの簡単な作業なのだが…よくあるのは

全属性が〜とか、水晶が壊れた〜とか

魔力無しとかだが…

はつきり言つて、入試の項目にでも追加すればよくないか？

そしたら何かがあつても下手に騒がれる事も、魔力が低いことによつておこる校内のイジメも無くなるんじゃないか？まあ、俺がとやかく言つ事じゃないな、普通の俺には関係ない事だし…

魔力測定は保健室でやる

順番は基本自由だ

学生の魔力の基準値は大体2000辺りだな

ま、貴族様々は遺伝かなんか知らんが、学生だと5、6000ぐらいいあるらしいがな

普通な俺は例に漏れることもなく

2250だった

平均より少し高めだが一般人にしては、であってギルドで魔法を使う奴らからしたらダメダメだな

俺がギルドAランクになったのは体術だしな

基本的に、魔力は身長と同じ

伸ばそうとしても伸びないものだし

ま、神様なら簡単に伸ばす事が出来るだろうがな

センリ「なら次は俺がやるぜ！」

「パキッ」

センセイ「そんな…水晶が壊れる程の魔力量!？」

ハア…

やっぱコイツ転生者だよ

何?無限の魔力量とかか?

…しかも自己紹介の時空気重くした奴

センリの事、ガン見してるし

あいつも転生者なのか?

センリ「うわああ!ビビった!」

嘘っばいな…

ぜってーこつなるって知ってたよコイツ

マジ早く終われよ…

無事(?) 魔力測定が終わった

セリみみたいに水晶を壊す馬鹿はいなかったが…

魔力無しが一人いた

気になる属性だが、この世界は魔力に属性は無い

魔法を使うとき、イメージによる多少の得手不得手がある程度だ

そして自己紹介の時のあいつ、イケメン君なのだが

魔力量は……0

つまり魔力無しだ

後で先生に連れて行かれたと

噂で聞いた話したが、多分本当だろうな

普通に転生した俺にも魔力があったから

転生者とは言いがたいが…

何かあることは間違いないな……

ついでにレイアは

4400

結構多い方だな、お嬢様なのかな？

準最強と自称最強（前書き）

名前だけ登場する新キャラが数名います

準最強と自称最強

魔力測定から数日後

特に変わった事もなく…

いや…

変わったと言えば、俺の友人関係だな

センリはまあ、いいとして

レイアとも友人と呼べる程度には仲良くなった

そしてセンリ繋がりで

ロリっ娘とも仲良くなってしまった

一応言うが、ロリと言っても幼女ではなく、少女だ

少女は少女でも小学生程度ではない、少々発育の悪い中学生程度だ

…何処の発育がは、あえて言わないでおこう

ともかく、仲良くなったロリっ娘の名前は

アルフェルト・イヴィディア

長い上に顔にあわず男らしい名前だった

長いのでアルと呼んでいる

アルフでもよかったが

さすがに名前負けしていて可哀相だった

それと、何故か男子制服を着た女子生徒がいて

気まぐれに注意してみたら

何故か仲良くなった

名前はテディア・アミュレス

テディアって呼んでる

…後は、暇潰しに図書室に行った時に

上の方の本棚の本を取ってあげたら

何かのラブコメみたく栗色の長髪の先輩とも仲良くなったな

今の所、この五人と友人関係にある

俺みたいな人間に、友人ができるなんて驚いたが

なんの事はない、皆本当の俺を見てないじゃないか

さて、疑問も晴れた事だ

図書室にでも行っつて……

うん、

俺の超直感(？)が行くなと告げている

校庭にでも行くか

天気は快晴

こつこつのを、お昼寝日和って言うんだよね

………つと？誰かと思えば、あれはイケメン君ではないか……

一人だし……

エア会話？

イケメン「くっ………生まれ！俺の左腕！！」

『……………』

うん、見なかった事にしようか……

いやさ……ほら……

ゴメン、正直関わりたくない
って、何故か関わりたくない奴程、関わることになんだよね

「ガサツ」

イケメン「……!!誰だ!」

うわぁー、やっちゃったヨー(棒読み)

まあ、本気で逃げようとしたら逃げられるしね

『……………』

イケメン「お前は!!?」

くっ……………左腕が共鳴している!?

何故……?

わかったぞ……………!お前、俺を消すために来た刺客だろう……

ふっ、まさかお前のような者が刺客とは……………

俺も甘く見られたものだな……………いいぜ!来な!

格の違いを見せてやるぜ!」

『……………』

……………多分、今の俺の目は生ゴミを見るような目をしているだろう……………

こんな時、普通に返事をかえしても

問答無用でバトルだよな

……………よし気絶させよう

イケメンの後ろに俺は「いた」から取りあえず
頭を思いつ切り殴って、気絶させた

もちろん、その辺にあった石（漬け物石ぐらいの大きさ）をつかって
……だつてさ
手刀で気絶させるとか、実際無理だよ？
俺は悪くない
……仕方ない、怪我だけは消してやるか

〔イケメンSide〕

「…っん」

目を開けると天井が見えた…
此処は…保健室？

「目、覚めた？」

っ！！

そうだ、俺は左腕を治めようとして……
意識がのまれたのか？
わからない…

「えつと…大丈夫？あつ、僕はケイ
君は校庭に倒れてたんだよ？」
どうやら、意識がのまれてそのまま倒れていたらしい
俺もまだまだだな…

「そうか…すまない、助かった
俺は…ライト、この恩は何時か俺が生きていたら、必ず返そう…」

それだけ言つて、俺は左腕を抑え、立ち去る

「やはり、この左腕は危険だな……」

〔ライトSide終了〕

イケメン「…っん」

どうやら、イケメン君が目を覚ましたらしい

『目、覚めた？』

やったの俺だけだな

でも、仕掛けてきたのあっちだし

俺のせいにされちゃあかなわないしなあ…

『えつと…大丈夫？あつ、僕はケイ

君は校庭に倒れていたんだよ？』

倒したの俺（笑）

イケメン「そうか…すまない、助かった

俺は…ライト、この恩は何時か俺が生きていたら、必ず返そう…」

死亡フラグじゃね？

てか、まさかのライト（笑）
リュウザキ殺してこいや

ライト「やはり、この左腕は危険だな……」

うわぁ、自分の世界に浸ってんなぁ

恩人って友人にはいるかな？

どうでもいいけどさ…

さてと

一時限サボれて人助け（笑）もしたことだし

教室戻る……

準最強のある日の放課後（前書き）

ほのぼの？系です

こつこつのって戦闘フラグ？ですよ

準最強のある日の放課後

ライトの名前といろんな意味で衝撃的な性格を知ってから数日
あれから、特にライトとは変わった事はない

授業も普通（内容は魔法とか魔物についても語られているが）だし
友人関係もまあまあ良好だ

学校の大きな行事（修学旅行みたいなもの）
も数ヶ月たたないとない

まあ、今日は平和だと言うことだ

が……

センリに誘われて

今日の放課後、センリ、レイア、アル、俺でショッピングをするこ
とになったのだ

はたから見れば、ダブルデートだろうな

男女の一見、仲睦まじい様子は平和そのもので、普通と言えなくも
ない……

だが、残念ながら

俺からすれば、修学旅行から楽しみだけを抜いたイベントだ

要は、疲れるだけ、金を使うだけ、面倒臭いだけだ

いやさ、別にレイアとアルが可愛くなかったり

魅力的じゃないわけじゃないよ？

ただ俺には嫁が……！

………まあ

そんなことはいいや

取りあえずショッピングか……

着て行く服がない……

今は、待ち合わせ時間丁度

レイアだけ遅れてる……

センリ「遅いな〜？」

センリ「怒りが滲み出てる…」

絶対、この俺を待たせるなんて！とか思ってるな

レイア「…皆！遅れてゴメンなさい」

『全然かまわないよ？ たった18分26秒の遅れなんて…』
ニッコリ…

レイア「…本当に…ゴメンなさい……」

はあ…

大方服でも選んでたんでしょ、結構可愛いし

俺の好みではないけどさ

まあ、誰も俺の好みなんか知ったこっちゃないだろうけど

センリ「その服可愛いじゃん？」

これがカップルなら

「服だけ？」

「お前は服よりもっと可愛いよ」

みたいな感じになるよね〜

つと、『てかショッピングって何買っただよ鬱陶しい』

アル「相変わらず毒舌だね〜」

なにつ!?

読心術だと!?

……あ〜、このボケ、二度目はないな

レイア「取りあえず服でもみようよ!〜!」

めんどいなあ〜

しかも服かよ

アル「じゃあ、あのお店いこ〜!」

店なんてどれも同じに見える、俺の目がおかしいのか?

センリ「なら、そこいっくか」

……センリもあまりよく解ってなさそうだが
良かった、俺の目は普通だ

「カラン、」

『……………』

セシリ『……………』

入った後、俺等は絶句した

なぜなら店内は女物のみだったからだ

まあ、それだけならいいんだけどさ、うん……

……下着とか……

『…セシリ、顔青いよ』

セシリは最早、真っ赤を通り越して顔を青くしてる

レイア「可愛いわ……」

アル「これいいんじゃないかな？」

はあ、もう全部同じに見える

アル「ここ終わったら、次はあそこと、あっちと……」

レイア「私、ここも行きたいんだけど」

アル「あ、いいね、全部いこっか」

俺達、生きて帰れるよな……？

.....

やっと終わった...

ヤバイ、本当に過労死できるレベルだ...

もうヤダ.....

二度とシヨツピングなんかしねえ.....

しかも買った服

着て行く場所がない...

今日は本当に意味の無い一日だった.....

でもまあ、こんな意味も意義もない一日もたまにはいいかな...

たまには、な

準最強のある日の放課後（後書き）

ケイ君リア充です…

取りあえず、死因は爆死でいいですかね…？

準最強は魔法が苦手

今、入学してから二度目の王道イベント

魔法を使う授業を行っている

いまさら？とか、普通は模擬戦闘だろ？って思つかもしいないが
此処はあくまで普通の学校だ

魔法だって、痴漢撃退程度の魔法を学んでハイ終了

魔法を重点的に学ぶのはギルド員育成学校とか、そういう専門学校だ
俺だってギルドでは体術での上上がったんだ

ギルド員育成学校に行かされる依頼なら、まだ快く請けたさ

センリ「ケイ！水の玉だせたか？」

ああ、今は授業中だったな

最初の課題は、1、2？ぐらいの水の玉をだすことだ

此処も王道とは言い難いな

最初の課題は普通

ファイヤーボール、火の玉だろ？まあ、一般人がホイホイ火の玉な
んかだせたら

危ない事この上ないし、仕方ないんだろう

現実とは甘く無いものなんだな……

だが、現実から目を背けることはしないぞ！

ライト「……うおおお！唸れ！俺の左手！」

……俺、たまには現実逃避も必要だと思っな、うん

センリ「ケイ？聞いてるか？」

アル「ケイ君！見て見て！出来たよ！」

ヤバい、子供にしか見えないって…………

『わあ！凄いな〜』

センリ「いや俺は無視かよ！」

うぜえよ、露骨に

この俺を無視？オーラ出すなよ

センセイ「ハイ、今日は出来ても出来なくても終了！」

嫌味にしか聞こえない…

どうせ俺は出来なかったが？

ちくしょー…………

レイア「ケイ、出来なかったんだ？」

『……………』

お前に関係ねーだろ？

あれか？

しょうがない！私が教えてあげるよ……的な恋愛フラグか？

レイア「もし、よかつたら教えようか？」

はいキタ、叩き折らせてもらおうよ？

『いいよ、学生なんだし、レイアだってうまいとは言えなかったし
…』

此処で脈アリなら、めげずにまた来る
脈ナシなら怒る

…多分な

レイア「っ！…いいわよ、人が親切心で言ってるのに！」

はい脈ナシ決定

まあ、あつても困るんだけどね

レイアはセンリラブだろ
多分

さて…学校の課題だし、誰かに教えて貰おうかな？

シエンは…ダメ、あいつ能力馬鹿だし第一、会いたくない

先生…なんかつまんない

センリは…なんかウザそう

……そうだ！

先輩がいるじゃないか！

きつと教えてくれるだろ、むしろ教えてくれないわけがない！

そうと決まれば

早速図書室にいこう！

二日後……

センリ「よお！できるようになった？」

ウザい、見下してんじゃねえよアホ

『教えてもらったからね！』

レイア「…っ！」

今のレイアにも聞こえたな…どうでもいいけど

アル「頑張ったんだね」

まあね

『うん、僕って魔法の才能なかったからね…』

センリ「出来たならそれでいいじゃん」

確かに、できりゃいいんだよな……
でも明らかに魔法は足手まといだ…、

体術と能力があるからいいけど…

あとで、レイアに謝っとかないとな
まあ、

「恥ずかしかったんだ…自分だけ出来ないんだもん、」

みたいな感じで言えば

許してくれるだろ

あゝあ、面倒臭いなあ……

準最強は魔法が苦手（後書き）

二日間、とばしちゃいました…

ケイ君は先輩が教えないはずが言っています

先輩は、何かの時の相談役や暇潰し用として仲良くなったので

（出会ったのは偶然）

それ以外、価値のないものと思っています

ちなみに、先輩はケイ君に片思い中

一目惚れという設定です

準最強と受付嬢

今日は学校がない

つまり祝日だ

そしてやることがない今、俺はギルドで依頼を請けようとしている
依頼は、不備さえ無ければ重複してもよいことになっている
だからまあ、依頼を請けたわけだが…

ギルドになんか、知ってるような気がする奴がいる…

てか、ローブを深く被ってるんだけど…

ローブ「……………」

うゝん…俺の超直感(?)は知り合いだって
言ってる気もしくない…

てか、あのローブ、四天王とか言う転生者軍団のマークはいつてん
だけど…

いや、もしかしたら人違いかもしれないし…

あつ、今ローブから顔見…え?

…………アハハ、なにやってんのセンリ…………

…………マジでかよ、凄いな俺の超直感(?)

俺、学校でキャラ変えてるしバレないよな?

…………外見変えてないからアウトじゃん…

センリ「……………!ケイ?(ボソツ)」

うわぁ、目合ったよ…

しかも今、ケイって言ったよな？
取りあえず返事、ってか問い詰めるか

『あれ？センリ……』

すみません、間違っていたら悪いのですが
センリ？顔、見せるや？』

ニツコリ

周りの俺の性格知ってるギルド員の
目が点状態だよ……

アハハ……

センリ「な、なんの事かな？（裏声）」

……ヤバい、楽しいかも

『失礼ですが、お顔を拝見させ、る』

そう言っつてローブを取る
もちろん、無理矢理

センリ「うわあー!!」

『……………センリって目、そんな色だっけ？』

あれ？確かあいつ

金髪碧眼だった気が……

……どーでもいいや

『取りあえず説明しよっか、センリ君？』

セシリ「はは、はい…」

セシリ「というわけです…」

『ふうん…』

どうやらセシリも学校にかような依頼を育て親ギルドマスターらしいからされて
学校に通う事になったらしい

なんなんだ？

子供を学校に行かせることがギルド内で流行ってんのか？

ギルドにいた理由は

学校で体が鈍ってないか心配だったので、依頼を請けに来た、と…

『でもセシリが四天王の一人だったんだ』

転生者って時点で、大体予想が付くんだけどな

ああ、あ、セシリのせいだ

完っ全にやる気無くした…

適当な討伐依頼、能力使って速攻でやって帰って寝よ

『……じゃあね』

センリ「はっ？ちよっ……」

うん、何か言ってるけど無視、
依頼は〜

これでいいや…

受付「BランクとAランクの討伐依頼、合計二つ、依頼内容はご確認なさいましたか？」

『…ああ、』

受付「討伐した際には、証拠となる品を持って来て下さい、それでは」

相変わらず素っ気ないなあ
いいや、早く終わらせよう

俺はギルドをでて裏街道へ行った
誰も見てないよな…？

……俺は討伐対象の後ろに「いた」
そして対象の心臓を機能して「いなかった」事にした
後は左目を、証拠品として失敬してポケットに入れた

この作業を二回繰り返すだけ

これで討伐任務完了だ

後はギルドに戻ってこの目を渡すだけだ

俺はギルドの受付に「いた」ので目を渡す
セリりはいなくなっていた

受付「確認をします、少々お待ちください」

受付「…対象のものと判明しました、報酬をどうぞ」

相変わらず素っ気ないが

時間が早過ぎる上に全く汚れてない、明らかに不自然な点が多過ぎるはずなのに、一切追及してこないから
面倒臭くなくて、それなりに好意はわくな
報酬も貰ったことだし

早く家に帰ろう

疲れたなあ……

準最強と受付嬢（後書き）

受付嬢、多分もう二度とでないと思います

センリ君、仕事中は目の色を変えている設定です

理由は格好いいからです（笑）

ギルドのお仕事ですが

基本、討伐です

Aランクは転生者無しにすると結構エリート組、報酬も結構いい設定です

準最強と仲間達？（前書き）

プロフィールです

準最強と仲間達？

鈴木 京

「ケイ」

男

容姿

身長170前後

黒髪黒目のフツメン

髪はストレートで長め

少し可愛い系の顔

目は死んでる

隻眼、傷はないが目は見えてない

性格

面倒臭がりの半オタク

腹黒ではなくただの毒舌

猫を被ってる素は俺

神様に殺されてから歪んだ

能力

めだ○ボックスの

「ダメージを押し付ける」能力

「何処にでも何時からでもいれる」能力

「全てをなかつた事に出来る」能力の強化バージョン
と

超直感(?)

前世ではなかつたし、ただの勘にしては精度が良すぎる

備考

神様に殺された、死因は不明
主人公

紫炎

「シエン」

男

容姿

身長180程度

短めの髪

黒髪紫目

20歳から変わってない

まあまあイケメン

性格

ショタコン疑惑をかけられた子供好きの

お人よし

子供っぽい

少し痛い人

能力

ワ〇ピースの實の能力全て

(水は平気)

不老不死

身体能力の上昇

最強の肉体

備考

14歳の時にコンビニに向かう途中トラックに跳ねられた
前世の愛読書はワンピース

竜崎 千里

「センリ・リュウザキ」

男

容姿

身体175ぐらい

金髪碧眼のイケメン

目は仕事の時は金色

髪は短めのツンツンヘア

性格

少し俺様

若干ヘタレで腹黒に弱い

能力

魔力量無限

身体能力の強化

肉体の強化

備考

自分を主人公に見立ててる

四天王の称号を持っている

目を金色にするのはカッコイイから

14の時に家族旅行中、車で事故り死亡、死因は覚えてない

「レイア・シルヴィアーナ」
女

容姿

身長165程度

桃色の髪に桃色の目

ツインテール

髪は腰までである

美人

性格

クーデレ

優しい面もある

備考

優秀な一般生徒

センリが好き…？

「アルフェルト・イヴィディア」
女

容姿

身長155程度

赤毛に黒目

髪はショート

ロリ

可愛い

性格

子供っぽい
空気は読める

備考

実は成績優秀
結構、博識

「ライト」

容姿

黒目黒髪イケメン
長髪

性格

厨二病患者
勘違いをよくする
眠っている力があるので自称最強

備考

左腕には、悪魔がやどっていると信じてる
魔法は結構優秀（普通にしては、だが）
左腕には何故か魔力がない

「テディア・アミュレス」
女

容姿

身長168ぐらい
金髪黒目

髪はショート

美人

性格

ツンデレ

実は少しヤンデレ

面白いこと大好き

備考

男装している

理由は面白いから

神様

備考

神様

何を考えてるかわからない

性格や容姿は一人ひとり変えて現れる

受付嬢

女

備考

ギルドの受付嬢

何に対しても無関心

人じゃないという噂もある

多数
その他

強者と自称最強、準最強、最強の出会い（前書き）

急展開です

強者と自称最強、準最強、最強の出会い

センリが四天王と解ってから数週間

センリとは多少、ギクシヤクしたが、今はもう直ってきた

この数週間は、特に大きなイベントはなかった

つまり、数週間たった今日

面倒で大きなイベントがあるのだ

イベントと言っても、学校祭とか修学旅行ではない

この町に、此処を治める貴族様が来るんだと

本来の俺なら

ふうん、面倒だから家に籠ってよ

と、なるのだが

此処最近、ますます精度がよくなった超直感(?)が

大きな問題がありそうだと告げている

貴族様は子供を連れて来て、さらわれて、

取りあえず俺以外の誰かが、助けると…

なんだか面白そうじゃないか？誘拐犯の素顔とか、そんな面倒事に

首を突っ込む奴とか

もしも、第三者があらわれてヒーローが悪役にされたり、とかさ……

そうと決まれば

こんな暗い部屋に閉じこもってないで、首を突っ込む馬鹿の一人になろう

……でもな〜んか

首を突っ込む馬鹿に、心当たりがあるんだよな…

どっかの厨二とか

四天王なんて奴とか

正義感溢れる口りっ娘とか

面白い事大好き男装女とか

……顔、仮面なんかで隠して行くかな…

って、仮面なんてないし…

包帯でいつか…

「センリSide」

今日は、この町をおさめる貴族のコハイル公爵が挨拶回りをするらしい

噂だととても謙虚な方で、王直々の

御礼状を受けた事もあるらしい

四天王の俺としては、一度あっておいて損はない相手だ

まあ、挨拶ぐらいいはしに行こう

俺は今、コハイル公爵の眼前にいる

「初めまして、コハイル公

俺は四天王が一人

センリと申す者です」

コハイル「ああ、噂は兼ね兼ね伺っているよ」

ふ〜ん、俺の武勇伝はかなり広がっているらしい
ま、当たり前的事だな

兵士「公爵様！ユラ様が何者かにさらわれたと報告が！」

おっ！王道イベントの一つ

貴族の子供が誘拐

それを助ける俺かあ〜

「コハイル公、ユラ様とは御子息か？」

コハイル「！っ…そうだ、よろしければ、搜索を手伝っては、いた
だけないだろうか？」

「最初からそのつもりだ
御子息の特徴などは？」

コハイル「亜麻色の髪に青い目で今年で8歳なる
身形は整えてある…
どうか、よろしくたのむ…」

「ああ…」

そう言って俺は、格好良く立ち去る
裏街道でも捜してみるか…

「セリSide終了」

「ライトSide」

俺は今、裏街道にいる

何故かって？

家に籠るのもなんだし

外にでたはよかったのだが…

表は、俺にとって眩し過ぎるからさ…

そして、左腕の悪魔と会話（皆には聞こえてない、知らない方が幸せなのだろうな…）

しながら歩いていたら…

何か、でっかい動く袋を持った（助けて〜って言った気がする…

…）

ゴツイオッサンとフードを深く被った人がお喋りしてる

場面を見てしまった…

いや、助けたいんだけどさ？左腕が邪魔をするんだ

体に乗っ取られて、勝手に寮に帰っちゃうんだよ

いやマジで

「ガタツ」

フード「誰だ！？」

ヤバイ…

いや大丈夫！

俺には悪魔が憑いている！

「そ、そこまでだ！

下賤な人攫いめ！

この俺が貴様らを駆除してやる！

(裏声)「

ふっ…決まった！

「ガッツ」

「なっ…！」

後ろからだど！？

卑怯な！

俺は、フード野郎(?)に後頭部を殴られて気絶した……

「ライトSide終了」

……うん

顔隠したのはいいけど

そーいや俺、子供どころか貴族様の顔すら見たことないんだよな…

まあ、能力を強化した御蔭でそんなの関係ないけどさ

取りあえず俺は

裏街道の一角を屋根の上から見て「いた」

何かあの袋動いてるけど…

あそこまで判りやすい人攫いってどうよ……

……………ん？

あれライト…？

顔隠しといてよかったな

ってなんかライトが叫んでる

裏声で（笑）

『っ！……………』

あのフード…

あそこまで速く…

魔法なのか？

いや、あそこまでの魔法を使える奴はギルドに入るな…

……………転生者、か

中々無いから、少し拍子抜けしてたが…

『転生者狩り……………』

転生者による、転生者狩り…

メリットも何もないが

強い奴とは戦える

四天王ともあるう者が

学校に通い、水晶を壊す騒ぎを起こしたんだ

漏れない方が可笑的い

大方、こんな町の管理をしている貴族とは言え
住んでる町の、貴族様の子供がさらわれたんだ
四天王としては助けるはず…
そしておびき寄せて……か

はつきり言つて、夢でも見てんの？
あんた妄想癖でもある？
なーんて言われそうだが

最近大活躍中の
俺の超直感(?)
が間違い無いと言っている

一気に急展開だ…
姿を現すのは止めよう…

「そこのお前…」

っ！テレパシーかよ…

「下りてこい、さもなけば敵と見做す…」

はあ…
本当に顔隠しててよかったな…

「スタツ」

フード「お前は敵か？」

どっかで聞いたことあるフレーズだな…

無難に返すか…

『…少なくとも、そちらに闘う気がないならば、敵になることはしないと思うぞ?』

フード「……お前は転生者だろう? 私達は、他の転生者と協力して力しか脳のない転生者を駆除しているのだ……」

なーんだ、世界征服とかじゃ無いのか…

一応、理由とか聞いとくべきか…?

『…何のためにだ? 協力してやらない事もないぞ?』

フード「…まあいい、教えてやろう…」

お前は転生者だろう? 転生した者は、少なくとも体が小さなうちから能力を暴発させる馬鹿はいない

……いたとしても、この世界の者に殺されるか、一人では生きられない」

まあ、俺も最初は苦労したしな

特に赤ちゃん時代なんて…

他の能力にしてたら発狂してたな……

フード「だから転生者は少なくとも、能力の暴発はさせないし、傲る者はこの世界の者に殺される

……問題は、俗に言う「トリップ」をした者だ」

フード「「トリップ」をした者は本来するべき能力の修得作業を一つもしない…」

しかも、「待つ」という事をしないのだ……」

犬かよ……
まあ確かに、赤ちゃんの頃から少なくとも2年ぐらいは体に慣れな
かったしな
自殺したくなる事もあったし…

フード「この世界には戸籍がない、しかも魔物だっている
頭が悪い輩でも、出生を気にする必要はない…

魔法と言つものが存在する御蔭で、多少の能力は魔法と解釈される…
中には頭の可笑しい奴が大虐殺を行つたり、
時空や次元を好き勝手に操る事もある…

そんな輩が…そうだな、私達が知っている転生者の10分の1の割
合でいる…

「
フード「私達はそんな輩を一人一人始末していつてるんだ」

……成る程ねえ、

つまり…センリは転生者じゃなく「トリップ」してきた奴なのか？
うゝん…俺も不快な感情は全て「押し付け」てきたから

「トリップ」した奴らと本質は変わらないんだよなあ……

フード「…協力する気になつたか？

お前としても、新参者が好き勝手するのは好ましくないんじゃない
のか？」

『……、協力する気はないが、敵になる気もない

俺は、それなりの暮らしをするためだけの能力しかもらってないしな
この世界では普通に暮らすよ』

「この世界では」な

フード「そうか…、まあ目立った行動さえしなければいい」

目立ったねえ……

つて、そついやライトがいたな…

『一つ、いいか？』

フード「…なんだ？」

いきなり無口になったな

さっきまで饒舌だったのに…

『袋の事はまあいいんだか、そこに倒れている奴はどつするんだ？』

フード「…知り合いだったか？」

『…いや、ただ上から見てただけだ…』

フード「そつだな、誘拐に巻き込まれた事にする

一般人だ、殺しはしないさ」

『……………』

てつきり、記憶操作でもすると思つたんだが…

そついう能力じゃないのか…

フード「わかつてると思つが、他言するなよ？」

『当たり前だろ？』

そう言って立ち去る

跡は…つけられてないな

「トリップ」してきた奴はいくら能力があっても

この世界で暮らしてた奴には勝てないだろ

それにしても、神様

人殺し過ぎだろ…

10分の1なんて

少なくとも、11人はいるってか…？

別次元に逃げてる奴とか

普通に暮らしてる奴とか

「そういう」能力でバテてないとか

………実は、全員転生者とその子孫、「トリップ」した人とか

ヤバい、ありえそう…

もう嫌だ…

〔センリSide〕

俺は今、裏街道を探索している

こう言うのって普通、直ぐ見つからないか？

全く、面倒だ…

「んっ？」

俺の目の前を今

包帯(?)らしき物で、顔をグルグル巻きにした奴が歩いていた

怪しい……

俺は、そいつが見えた通路まで走った

すると、そいつの走って行った方向とは逆の方向に

ゴツい大きな動く袋を抱えたオッサンと

フードで顔を隠した奴と

気絶しているらしい黒髪の男がいた

犯人はこいつらだな……

「お前等！動くな！」

フード「……お前、」

……、？

「なんだ誘拐犯？」

フード「この世界の人間ではないだろう？」

「っ！、何故知っている!？」

もしかして、他のトリップした奴が……？

まあ王道だが……

俺よりかなり強いだろ

成長フラグか？

フード「わかつているだろう？こんな話をした時点で、私もこの世界の人間ではない事も

私がお前より強い事も…」

成長フラグだと願いたいな…

フード「私は優しいからな、質問に答えればあの子供を返してやる」

「…ああ、」

勝てない相手に挑む程、俺は無謀じゃないぞ？

フード「お前はなんでこの世界に来て、来てから何年目で何をする予定だ？」

多分、間違えた答えをしたら死ぬな
子供を返すって言ったけど

生きて返す（俺も含めて）とは言っていないし…

下手に嘘言っても、殺されそうだな…

「…俺は、二年前、この世界に来た、気がついたら、神様にとばされてて、何でかはわからない

俺はこの世界で、学校とか、楽しんで、
今のままでいたい…」

フード「……、お前は四天王になって何がしたかったんだ？」

「……………ギルドマスター、…育て親に相応しい子供になるため、…」
フード「…いいだろう
…ただし、今後目立ったまねはするな」

俺はどうやら、正解を選んだらしい
フードとゴツいオッサンは去って行った…

「……………？こいつ誰だ？」

俺は気絶しているらしい
黒髪の顔を見た

「……………ライト？」

流石に、クラス全員の名前は覚えてないが
俺の名字が竜崎だったから、何となく覚えていた
しかも、ギルドマスターにもらったファミリーネームが
ローライト…
…って、そんな話はいいか…

取りあえず

公爵様の所に…

ライト……………は放っておこう、うん……………

「セシリSide終了」

強者と自称最強、準最強、最強の出会い（後書き）

謎のフードとオッサンがでてきました

フードは転生者ですがオッサンはどうしましょう…？

二人とも転生者が、一人は能力でうみだされてるのか…

取りあえず、このまま修行パートにもっていききたいですね
なんか無理っぽそうですが…

手の平の上の最強と、(前書き)

無理矢理シリーズ入れてみました

手の平の上の最強と、

「トリップ」してきた奴らがいる話を聞いた次の日
俺は普通に登校中だ

あのあとライトとあの袋（子供）がどうなったかは知らない
多分、生きてるだろうが、あくまでも多分だ
クラスに行ったらライトの机が空いていて

「ケイ君ったら何言ってるの？あそこの席は、入学した時から何故
か空いたままじゃない」
なんて事になるかもしれない…

「ガラッ…」

教室に入り中を見回す

ライトの席は…

……空いてる…

アハハ…

俺知らね

………？

教科書が入ってる…

なんだ生きてんのか…

そっぴゃ

センリとレイアがいない…

いつもなら挨拶してくるのに…

そっぴゃフードの狙いはセンリだっけ…

レイア「あっ…ケイ、おはよう」

レイアは今来たらしい
なんか目が腫れてる…

『おはよう、センリ見かけなかった？』

レイア「……っセンリなら、しばらく休むらしいわよ……」

あれ？もしかして

レイアにだけ正体ばらして旅？ってか一人だけ修行パート入った系？
うわぁキモ…

何の能力だか知らないけど、あいつ「トリップ」してきたんだろ？
汗水流して修行しても、勝てないだろ、転生者には
まあ神様がちゃちゃ入れそうだけどな

しばらくしたら

伝説の秘技（笑）でも見つけて戻ってくるだろ
俺はあいつが頑張ってるので嘲笑ったりしながら普通に暮らしま
すかねえ

「ガラッ」

先生「お前等々席つけ」

先生「急な事だが、しばらくセンリが学校を休むらしいぞ
多分一年ぐらい？」

……軽いなあ

てかいつそ、学校止めればいいのにね
一年なんて短時間で何十年も生きて、生き抜いてきた奴に勝とうとか
馬鹿としか言いようがないね
ま、どっかの漫画の主人公補正みたく

神様に踊らされておしまいだろうけど

いいなあ〜

神様に踊らされてたとも知らずに、レイアと（もしくはハーレム？）
いちやこらする余生が待ってるんだから

俺もここで楽しみ終わったら

適当に俺だけが楽しめるような世界に行こ〜

ここも実は結構楽しいんだけどな

姿消して十年後辺りに戻ってこよっかな〜

……いいね、いつ姿消そうかな？やっぱラスボスとの戦闘後だろ
てかラスボスって誰だ？

フードは幹部、ただし一番弱い

みたいな設定だろ？

つか、あの集団ボスいんの？

……

どーでもいいーや

取りあえず俺は楽しもう、考えるなんて性に合わない

センリはどれくらい

俺を楽しませてくれるかな？

楽しみで仕方ないけどさあ……

………こんな俺も、神様に踊らされてるのかな……？

手の平の上の最強と、（後書き）

一応

ライト君もそれなりの努力をこれからして、学校では首席にするつもりです

学校では、ですけど…

セシリ君

一人だけ修行パート入りました

セシリ君Sideの番外編書いて、あえて学校は飛ばします
ケイ君の独白は入れてみようかとは思っています

一年程度なので、顔も身長も余り変わらない設定で、
外見上変化は見られないが内面は、みたいにしたいと思います
（実際はネタが余らないからですが）

でも一人ぐらいはスツゴい変化があって

「いやいやいや！誰だよ!?!」

「はあ？○○じゃん」

「わかんねーよ!?!」

みたいな王道ギャグも入れようか迷ってます…

神様と最強の番外編

俺は弱い…

だから旅に出た、

レイアにだけ別れを告げて…

俺は主人公になりたい、主人公は悪を倒すものだろう？
なら悪は？あのフードだろ

成長フラグを立ててもらったんだ、折っちゃ悪いだろ？

俺はただ、主人公になりたいんだ！

平凡は神様の所為で非凡に変わった

俺はその世界で王道に、だけど非凡に生きてきた

非凡はいつしか俺にとっての平凡に変わった

そんな平凡がまた、非凡に変わろうとしているんだ！

成長フラグ？

なら、成長してやろうじゃないか！！

主人公らしく努力して

主人公らしく正々堂々

主人公らしく王道に、俺は主人公になるんだ！

そのために、俺は旅にでた！主人公らしく強くなるために！

主人公らしく悪を倒すという大義名分を抱えて！

目的地は神の地と言われる大陸渡った先にある小さな孤島

困った時の神頼みなんて言うだろ？

まあ、そこには「神」なんて言う奴がいるらしい
俺は、俺のことを「トリップ」させた奴じゃないかと思うのだが…
他の「トリップ」した奴だっているのに「神」なんて言われてるか
らには、間違いなさそうだ
俺は神に新たな力をあたえてもらうために、そこへ行く

強くなるには努力？

ああ、強くなるには努力が必要だ

だから俺は力をもらう努力をしている

他力本願？

行動を起こしたのは俺だ、力を使うのは俺だ！

俺は主人公になるんだ！

主人公になって、主人公のように、主人公らしくして、主人公みたく
いに！生きるんだ！

？「主人公になった後は、どうするの？」

主人公になった後は…

主人公らしく過ごす？

主人公になった後？主人公じゃない？

主人公に終わりは？主人公らしく死ぬんだろ？

………死んだ、あと…？

死んだらもう、生き返れないだろ？

死んだ後…主人公が………物語は、終わるだろ？

………終わる？

物語……？

何言ってるんだ？

ここは現実だろ？

主人公？

ここは…現実？

俺は…？

主人公なのか？

なら、終わるのか？

現実には？物語には？主人公は？

……俺は？

俺は本当に主人公になりたかったの…？

〔神様 Side〕

あゝあ、あの子が変わなこと吹き込むから

「壊れちゃった」よ

まったく……

仕方ないなあ、つまらないけど

記憶操作して適当な時期に戻すか…

まったく！本当、なにしてくれてんだよ！

マジであんな奴に能力あげなきゃよかつたなあ〜
せつかく僕をも消せる能力をあげたのに！

マジないわ〜、ひくわ〜

実は楽しかったりするけど！

う〜ん、やっぱり認めたくないけど楽しいなあ〜

こんなに愉快的な茶番は初めて！

な〜んちゃって

僕も参加したいな

な〜んて実はいつでも出来るんだけど

さてと、

さっさと記憶操作しちまって遊んじゃうか！

「神様Side終了」

神様と最強の番外編（後書き）

神様の話し方を大きく変えました

理由は、もとの神様 *S i d e* を見ていたら枕に顔を埋めてジタバタしたくなったからです

準最強の平凡な過去（前書き）

スランプだったので書いてみました

ケイ君が鈴木京だった頃を書こうと思ったのですが…
取りあえず、過去を語るので過去編にしておきます

準最強の平凡な過去

今日は俺の前世にあたるであろう、鈴木京について話そう
突然何言い出すんだとは思わないでね

…取りあえず、俺の名前は鈴木京だった

死んだのは高校一年の16歳の誕生日の一日前

死因は知らん、気づいたら神様の前で自分が死んだ事は理解していた
こんな感じで死んだ鈴木京の人生を語ろう

容姿は…今の姿に軽いニキビがあつて、+5? -5? つて所だな、
要は背が低くて少しぽっちゃりしてたつて事

性格は、真っ直ぐない子だったらしいな

……悪い事はしないけど、万引きとか喝上げしてても注意はしない、
みたいな?

あと、軽いオタクだったな、夢は二次元に行く事つてぐらいの

成績は中学までは上の中、高校は中の上くらいだったかな

体育は2だった、一番数学が得意だったな

……保健は3だからね?

友人関係は…良好だったね、中学の時の同じ高校を選んだ友達は今
員クラスが違ったけど、逸れなりに話したり休日には遊んだりしたし
高校入つて一緒につるむグループはいたし、二人ぐらい漫画とかで
話の合う奴はいたな

悪友つて奴もいて、二回だけ、一緒に授業サボったりもした

家族関係も良好、酒もタバコもない、理想の、とまではいかないけ

どさ

俺は一人っ子だったけど、近所に優しい兄ちゃん一つ二つ下の子供がいて、寂しくはなかったし
子供らしい駄々をこねたりはした事もあったけど、我が儘な奴ではなかった

悪い事といえば、自転車こいでてコケて足の骨にひびはいった事もあったし、夏休みの宿題が終わらなくて泣いた事もあった、当然、嫌いな奴もいたし、小学生の頃の初恋は想いを告げる事なく終わった
つまり、何から何まで恵まれた何処にでもいるような子だった
そんな俺のとある日の出来事を語ろう
まあ、ぶっちゃけただけの日程なんだけど

六時、起床

時々、早く目が覚めたり寝過ぎすけど、大体この時間に起きる

六時半、洗顔、朝食

俺は着替える前に朝食を食べるタイプだ

今日の朝は和風、朝は和風と洋風の時がある、要は米かパンかだ

七時、歯磨き、着替え

歯磨き粉はこの間買ったイチゴ味にチャレンジしてみる、微妙な味だったが不味いわけではないので使い切ろう

歯磨きが終わったら制服に着替える、ちなみにブレザーだ

七時半、登校中

余程の事がないかぎり徒歩だ、家から二十分程歩けばちらほらと
同じ学校の奴がいたりする

く七時五十分、到着

自分のクラスへ行く、途中二、三人に挨拶される
自分のクラスに着くと同じグループの二人に挨拶される
よう！と元気よく挨拶しているのが野上洋平
面白がつて、おはようございます、とか言ってくるのが矢口海斗
一応挨拶されたので、おはよ、と適当にかえす

く八時三十分

同じグループの最後の一人が遅刻して来る、名前は中原亮太
さすがに遅刻したからといって廊下に立たせる事はしない

く十二時十五分、授業中

ノートをとって話を聞いただけ、家に帰ったら復習しないとな
ちなみにグループ内で俺が一番成績がいい、一番悪いの言うつまで
もなく、中原亮太で
二番目が海斗、三番目が洋平だ

く十二時四十五分、昼飯

昼は弁当制、漫画のように屋上で食べるわけもなく、男四人と女
子二人（亮太の彼女と親友）で机を合わせて食べる
俺はたいいてい、他のグループの人の話に聞き耳をたてている、お陰
でこのグループの情報係だ
今日聞いたのはいつもの誰と誰が実は仲が悪いとか、誰かの彼氏が
先輩とかだ

〓三時三十五分、授業終了

今日は早めに終わる日だった

矢口海斗は心霊研究会（構成員は四人らしい）、

野上洋平は野球部に所属しているのでさっさと行ってしまった

俺と亮太は帰宅部だ…

亮太の彼女：家田愛美とその親友、里島麻理は吹奏楽部

亮太は部活のある日はいつも、愛美が終わるのを待っている

俺は帰るけど

〓五時半、本屋で立ち読み

この本屋は結構品揃えがいいし、立ち読み自由ビートルがついてないだけだから気に入っている

もちろん金は持つてるのでジャップとか連載漫画の最新刊とかを買う、流石に何も買わないで立ち読みする勇氣はない

100

〓六時半、帰宅

家に帰って着替えたらずくに本を読んで、次にゲーム、一通りやったら下から

ご飯出来たよー、っと声がする

すぐに行くー、とかえしてセーブする

〓七時、夕食

俺の反抗期は中学の時、一回だけ授業をサボっただけであっさり終了した

今日の出来事を、適当に笑いながら言っでご飯を食べる

某自殺志願女の家の如く、煮物が甘い、まあ、父さんは浮気なんか

してないけどさ

く八時、ゲーム、勉強

ゲームをちよこちよこやりながら勉強、不真面目だが、これが結構覚える……ような気がする

く八時半、風呂

ざかつ、と洗って風呂にゆつくりつかる

いつも何かしらの歌を歌う

せかいでいちーばんおひめさまあ

今日は某ツンデレ我が儘なお姫様ソングを歌った、はっきり言ってキモイ

声ぐらい格好良くなりたい、せめて声だけは

く十一時、ゲーム

勉強？なにそれおいしいの？状態の俺

今はバイ〇ハザードをやってる、怖いので余り手をのばしてしなかったが、やってみる意外と怖くないしグロくない
次から色々チャレンジしてみようかな

く十一時半、就寝

時計を確認すると十一時半そろそろ眠いし寝よう、電気をけすと蛍光塗料が使われている時計が目にはいる
そっいえば

明後日は俺の誕生日だったんだなあ

準最強の平凡な過去（後書き）

誤字脱字があったら教えてください

最強の帰還

あれから一年と少したった

変わった事なんてない

いや…

変わったと言えば事と言えば

二年になってクラス替えをして

デディ、アル、レイア、ライト、俺が同じクラスになった

そして後ろの方に一つ

空いた席がある…

それと、超直感が使いこなせるようになったな

半分オートみたいなき感じだけど

後は特にないかな？

ああ、ギルドのランクがSになったな

まあどうでもいいけど

皆相変わらずだし

……何故今日に限ってそんな話をするかと言うと

俺の超直感がセンリの帰りを知らせてくれてたりする

強くなったりしたのかなあ？

途中から学校来ることもないだろうし

多分センリが登校するのは明日だろ

……町に行ったら、俺にとってはどうでもいい事だけど

涙の再会が見れそうだと超直感が言っている

言っとくが、行かないからな？

馬に蹴られたくはないしな

つと、そうすると俺、今日することないな…

皆、センリの所行くだろうし…

…誰かと友情でも深めますか

つて、誰とだよ…あ、先輩とか？

名前、なんだっけ？

まあいいや、先輩で

うん…皆と違って大人しいし、リアクションも面白いし
暇潰しには最適だよな、それなりに気に入ってるよ？

さてと、なら図書室に行きますか…

最強の帰還（後書き）

え〜っと…

無理矢理先輩とのデート（？）を入れちゃったんですが…
ケイ君の「気に入る」は、すでに玩具としか見てないです
なので恋愛感情皆無です

準最強と男装ちゃん(前書き)

話のみのあの娘が登場します

準最強と男装ちゃん

超直感がセンリの帰還を告げていた翌日

先生「あゝ、クラスが違う奴もいるだろうから言っとく、一年ん時からしばらく登校拒否してたセンリだ」

センリ「え〜っと、はじめまして久しぶり！センリ君です！ヨロシク」

……とまあセンリが学校に来たのだが
あえて登校拒否のあたりはツッコまないぞ？

あと、センリ
確かに面倒だったから一年間放置してたが、なんか素でウザくないか？

前も確かに馬鹿？ってかヘタレだったけど、もっと高飛車な俺様何様センリ様って感じがしたの……
ま、いつか

それにしても、皆反応薄いなあ……昨日（多分）もう会ったあらかな？

センリ「お！ケイじゃん、お久〜」

……殴っていいだろうか？

いや、もう殴るよ？なんか苛ついた、
が苛ついた、

「サッ」

センリ「うわ！危ないなあ！」

『……ウザいよ、わざとらしいしキモいし』

マジ苛つくなあ、ほら周りがこっち見てる

今、俺はSランクに出来る最速のスピードでこいつを殴った

ついでに俺がギルドSランクということは学校中に知れ渡っている

……

…ああ、つたく、今の状況は

アレだ、バトル漫画の少し戦えるヒロイン的ポジションの奴が、主人公へタレ男が旅に出て帰ってきた時、こんなに…強くなかったのに！みたいなシチュエーションだ

一応言うが、飽くまで「みたいな」であって、断じて俺がヒロイン的ポジションにいるわけではないぞ？

センリ「相変わらず毒舌だなあ〜」

『なんの事かな？』

ニッコリ

センリ「な…なんでもありません！！」

へタレな所は変わらずかあ、

本当、それなんて王道？

そんな昔と変わらない部分があるからこそヒロインが安心感を得て、手もとどかない存在から恋愛対象になるんだろうが！

だってレイアが不安そうな顔した後笑ってたし！

てか、ヒロインはやっぱりレイアかよ

レイア「やっぱり相変わらずね」

アル「だよね〜」

ライト「……知り合なのか？」

ライトが話かけてきた、ライト、お前同じクラスだったよな？

『はあ……一年の時、同じクラスだったセンリ・リュウザキだよ？
ライト、クラスの人の名前ぐらい覚えておこつよ？』

俺は覚えてねーけどな

ライト「そうだったか、すまないな

……あの頃は力の制御に……いや、なんでもない」

テディ「へー、そーだったんだ」

ライトの厨二も相変わらずだったな、実際なんかありそうだけど

センリ「あ〜っと？ライトだったよな？それと……こっちの女子は、
テディア・アミュレスだっけ？」

俺とテディ以外は聞こえないぐらいの音量で「女子」と言った

テディ「……別にテディでいいけど？」

センリ「二人ともよろしくな？」

ライト「……ああ、よろしく」

テディ「まあ、よろしくしてやるよ」

テディが女子だって気づいたか…

テディが新しい玩具を見つけた子供みたいな目をしてたな、それに少しだけ俺はムツとしたりした

…あの玩具を先に見つけのも、遊んでいるのも俺が最初なのに…
って、俺は子供かよ

……本質的にはなんら変わりがない気もするけどさ？

取りあえず、今日はテディからの質問せめにあいそうだ

あいつは何者なのか、強さはどうなのか性格はどんなのか、

テディは俺の事も玩具と見ているが、「遊ぶ」より「使う」のを目的にしてるな

…いっておくけど、テディはトリップしても転生してもいない

あの性格は子供の頃、俺と同じように誘拐されて、少し助けられるのが遅かったせいで奴隷市場の競りに掛けられたんだ

すぐに助けられたとは言え、奴隷として扱われた事は大きかったらしい

人が人としてではなく、家畜や玩具として売られる

幼心は酷く傷ついただろうな

そのせいであんな性格になったのだ

簡単に言うと、イジメられた事があるやつはイジメられたくないからイジメる、そんな感じだろ

無意識に、そうならない様に上に立とうとする…そんな結果あの性格だ

…ついでに誘拐云々の話は本人から聞いた、俺のファミリーネームが無いのをテディに聞かれた時、誘拐されて助けられたはいいけど、
く的な感じに話たら教えてくれた
聞いてねーのにな

てか、フラグだよな

貴方はすぐに助けられたじゃない！あの光景を見なかった貴方なにかに私の気持ちはわからない！

ああ、だが！俺は誘拐されて助けられた者の気持ちなら同じようにわかる！

だから…だからこそ俺は、お前を助け出してやりたいんだ！

……みたいなの？

やっべー、俺、妄想癖あるかもしんね…

あゝあ、なんかもう怠い

早く学校終わんないかな…

放課後、何故かセンリお帰りパーティー（笑）をする事になった
場所はセンリの寮の部屋

参加者は

言うまでもなくセンリに俺、ライト、レイア、テディ、アルだ

他の生徒は誘ってない、誘って無いのであつて決して来ないわけで

はないぞ？
来なかったらさすがに可哀相だしな
ま、来ない自信はあるけど

センリの部屋には帰らずそのまま行く
テディと俺は一人暮らしだしアルとライトとレイアは寮生だからな
まあ、部屋に入ったわけだが…

ライト「…広くないか？」

アル「豪華っぽくない？」

レイア「そう？」

…広い、しかも心做しか豪華だ
所謂、特別室だろう、レイアはお嬢様なので普通に対応してる

『ズルイね』

テディ「…不公平だよな、（ボソツ）」

テディ、怒ってるな

ま、自分が下なのがゆるせないんだろうけど

多分、センリはこの一年の事と四天王だって言うだろ
正直、テディは関係ないよな
ライトは襲われたし、アルと俺はクラスメイト、レイアは彼女（？）
だし

……まあいつか、どうせ友達らしいんだから巻き込まれるだろ
俺も実はバレてない、左目は見えてないことでも言っちゃおうかな？
親睦を深めるためにね
センリお帰りパーティーじゃなくて親睦を深め合おうパーティーに
でもすればいいのに

ネーミングセンスの欠片もない名前である事には変わりがないけど…

さうて、皆で語り合いませんか？

準最強と男装ちゃん（後書き）

テディちゃんの過去が入りました

テディちゃんの両親は生きてますが、誘拐された時に助けてくれなかった（搜索願いをだしたり、捜したりはしていた）ので普通の家庭よりギクシャクしてる上に一人暮らし中です

他人を見下して自分の玩具のように考える癖がありますが作中のケイ君の説明どおりです、トラウマになってるんです自己表現が上手く出来ないのでツンデレになります、ということなっ
てたらいいです

男装は面白いからが理由ですが無意識の内に自分を強く見せたい、
と思った行動です

テディちゃんはヤンデレも入れたいんですよね、相手はケイ君でしょ
うか？

周りの女は始末するタイプなら被害者は先輩ですかね？

最強達と粗筋と 番外編（前書き）

なかなか進まないの、息抜きとして

もしも、粗筋を鈴木京ではなく他のキャラにやらせたら、です

キャラはセンチ君、ライト君、ケイ君です

ケイ 鈴木京です

あくまで粗筋は、そのキャラの主観です

最強達と粗筋と 番外編

センリ

俺の名前は竜崎千里、成績優秀スポーツ万能、さらにはイケメンな
んだぜ

そんな完璧人間な俺は、家族で旅行に行ったある日、気づいたら真
っ白な空間に！？

そこには神様がいて、どうやら俺は神様にまで好かれたおかげで、
トリップさせてくれるらしい

この物語は、そんな理由でトリップさせられた俺が織り成す、笑い
あり、涙あり、恋愛ありの学園ストーリーだ！

ライト

俺は、いつも独りだった

いじめられてるわけではない、……ただ皆を巻き込みたくなかった
俺は、生まれた時から独りで、共にあるのはこの、呪われた力だけ
お母、…母上だけは、この力を気味悪がったりはしなかったが、目
にうかぶのは同情の色だった

この物語は、孤独な俺が孤独から抜け出し、皆と共に笑いあえるま
でに成長していく

……そんな物語だ

ケイ（シリアス）

俺は元、鈴木京だ

物語？

そんなの俺には全く関係ないね

俺はただ、何時も何処でも楽しむだけだ

俺が、だから、見ても面白くないかもよ？

まあ、それでもいいなら見れば？

この物語は、この俺が一人楽しむためだけに繰り広げられるストーリーだよ

ケイ（通常）

僕の名前はマイケル・ジャクソン

この物語は腹黒ちゃん な僕が王道を突っ切る話なのだ

……あ、嘘です、スミマセンデシタ

え〜っと、この物語の主旨は取りあえず俺が楽しむ事だ
要約しすぎだが、これこそ真理

まあ、内容はギャグあり、シリアスあり、あとは……

……グダグダ？

ま、ともかく、こんな風に進んでくんで、よろしくね

……あと、俺の名前はケイだからね

最強達と粗筋と 番外編（後書き）

ケイ君は何となく、シリアスバージョンと通常バージョンでやってみました

マイケル・ジャクソンをもう一度言わせて見たかったです

準最強の独白

センリオ帰りパーティーから数ヶ月

かなり飛んだがこの数ヶ月何もしていない、俺はな

今は秋、秋には魔力があるだかつていう、どっかの小説で見た気がするような理由でセンリは秋休みに悪(?)の集団を潰そうとしている

……本当は秋休みの一週間と二日の内に、どうやらあいつらは一年に一度だけの大きな集会を開くからだそうだ

構成員は10〜15人ほどで

どうやらセンリはあの一年間で情報を集めたらしい

センリが悪の集団を倒してヒーローになるのは、確かに面白い
なぜならセンリがヒーローになるのは、所詮手の平の上の茶番劇で
だからだ

だが、はっきり言ってあいつら(悪の組織?)が可哀相な気がしなくもない

あいつらは無駄な殺しもしないし、むしろ自分達のような化け物(能力者)のした事を自分達で解決しようとしている

偏に悪とは言えない、むしろ大部分から見ると正義だ

神様も考えたよな?

ただのハッピーエンドじゃ終われなさそうだ

まあ、俺も悪の集団を潰す計画に付き合う事になったんだけどな
後、ライトもだ

なんか知らないけど、左腕の力がどうとかで強くなったらしい
俺は曲がりなりに、ギルドSランクだ

とまあ、二日後の秋休みには楽しいパーティーが待ってるのだが…
何故かテディからお守りをもらったんだよね
ちなみに計画はセンリオ帰りパーティーの時に話したからこのメン
バーは知ってる

レイアはセンリ

アルはライト

テディは俺にお守りを作ったらしい

はあ、どこぞのバトル漫画だよ…？

しかも今日、先輩が呼び止めてきて

なんかもう会えない気がしたとかって言ってきた、

笑い飛ばしたけどさ

死亡フラグだよなこれ？

俺に死ねってか？

ったく……

まあいいや、取りあえず二日後の秋休みまでは楽にすごそう

どんな風にこの物語が動いていくかが楽しみだ

全部、全部、ゼーんぶ

神様の茶番で、俺らはただの道化だとしても

俺は楽しもう、神様に踊らされてる？

ならば綺麗に踊ってやろうじゃないか

物語が終わる最後の一瞬まで踊り続けてやろうじゃないか

死ぬ最期の一瞬まで笑い続けてやろうじゃないか

俺は楽しむだけだ

何があっても、な……

準最強の独白（後書き）

ケイ君の一人語りでした

死亡フラグを立ててみたりしましたが…

死にそうにないですよね

このままこの世界では死んだけど別世界へく、みたいな流れにしましようか…

ライト君の左腕覚醒しましたが…

描写もないし、能力も決めてないです…

悪魔が宿ってるはずですが…暗黒パワー？だとヒーローって感じがあまりしないですよね…

どうしましようか…

最強三人組と長い秋休み？（前書き）

秋休み1、2、3日です

町を出て宿をとるまでの話です

ちよつと修学旅行のバスネタを入れてみました
風呂か車かは読んでみてのお楽しみ？です

最強三人組と長い秋休み？

秋休み二日目、俺達は今馬車に乗っている

とある町で集会はひらかれるらしいので、その町に向かって最中なのだ

馬車で2日程の距離なのだが、センリが歩いて行くと言い出したりもした

歩いて行こうなんて馬鹿だろ、むしろ歩いて逝こうの間違いだろ
あいつ一人なら魔法でも何でも使えばいいだろうが、少なくともライトは移動系の力は使えない

能力も使わずに歩こうものなら一週間ぐらいかかるぞ？片道にな
しかも、疲れるだろ普通に

という訳で、俺達は徒歩と言う移動手段を却下して馬車を使った

そんな感じで馬車を使い順調に目的地へ向かっている

秋休み二日目、俺達は魔物に襲われてる…

はつきり言って雑魚だ、数もそれなり、センリに瞬殺された

……辺りがグロい事になってる

俺は打撃が能力しか使わないから、血を見るのは証拠品を持ち帰る時だけだ

……自分にまで飛び散ってきた物と吐き気と本の僅かな罪悪感を「
なかった」事にした

その夜、俺は夢を見た

神様「お久しぶりです」

……うん、決戦の前の神様との会話はもはやテンプレだね
キャラ違うし

そんで、何の用？

神様「反応が薄いですね？……まあ、いいです、私から決戦の前に
アドバイスをしに来ました」

……アドバイス、か……
自分が楽しむためにするくせにな

神様「当たり前でしょう？……アドバイスですが、二つほど私が与え
た能力の事に関するものがあります、聞きますか？」

聞くに決まってるだろ

神様「まず一つ目ですが、貴方の「全てをなかった事にする」能力
については……」

神様がわざわざ言いに来たんだ、どうせ、私をもなかった事に出来
てしまうとか言い出すんだろ？

神様「ククツ……正解です、それでは二つ目です、「なかった事に」
する能力では、他の者の能力を「なかった事に」出来ないのです」

……他の奴ら全員に自分を消せる能力あげてんじゃないのか？

神様「私を消せる能力、他者の能力を消せる能力は貴方以外、誰にも与えていません」

……？俺の能力では無理なんじゃなかったのか？

神様「……貴方は一度も使った事のない能力に、他者の能力をなかつた事にして、身体能力も「昔の」貴方と同じにする能力がありません」

あゝ、ブツ○メーカーの「鈴木 京」バージョンって事でOK？
んで、俺が一回も使った事のない能力って……

……シャーペン？

神様「はい」

うわあ、あの時、軽く厨二病患ってたんだって……

シャーペンも、学用品で戦うとか格好良くね？って思ったからだったのに……

神様「取りあえず、そのシャープペンシルにその能力がついていまず、使い方はそれで相手に怪我を負わせるだけです」

かすり傷とかでもいいの？

神様「はい、そして三つ目、組織にボスは付き物です」

神様は随分とご都合主義なんだな？

神様「それも当たり前じゃないですか

……では最後に、貴方は、貴方ですよ？」

『…っは、俺が俺じゃない訳無いだろ…?』

神様「クスクス、本当に貴方は面白いですよ」

お前に気に入られても面倒臭いだけだけどな

神様「…それでは、私はそろそろ帰らせていただきます、精々これからも楽しませてください

それと、演技力をつけておいて下さいね…?」

『……………ん、』

どうやら起きたらしい

……取りあえず、俺は道化だが人形ではないらしいな

それにしても、最後の演技力ってなんのためなんだ…?

……ま、いつか

いざとなっても演技なんてやり馴れてるし

大方俺になんかの役回りでもあるんだろ

まだ暗いけど、二度寝は無理だな

後5、6時間で目的地に着くだろうし

早く着かないかなあ

うん…

やったこと無いけど、体感時間を押し付けたり出来ないかな?

……危ないし止めておこ、能力が暴走しても困るし
…言っておくが、俺は神様に能力を使いこなせるようになってもらっ
たが、今回俺がやるうとしてるのは
普通の主婦が、普段使いこなしていた包丁でジャグリングをするよ
うなものだ
いくら使いこなせるとは言えやるうとしている事とは全く関係無い、
危な過ぎる

……まあ、俺はそれをやるうとしてたんだけどさ
ともかく、それなりの応用はきくが限界はあるって事だな

ライト「……ふあ〜」

『あ、ライトおはよう、起きるの早いね』

いつの間にか外が少しだけ明るくなっていた、

ライト「ああ、あまり深く寝るとコイツが、な……」

うぜえ……

何なんだよマジで、朝から厨二病全開？むしろ24時間何時でも厨
二？

『ああ、そっか……大変だね』

うん、やっぱり俺演技力凄い、自分に惚れるぜ

……うぜ、気持ち悪うなってきた

ライト「別になんともないさ……
何か顔色悪いけど大丈夫か!？」

『アハハ…大丈夫、…うえっ……多分』

ライト「多分!?!ちよっ、吐くなよ?吐くなよおお!?!」

何コイツ、超面白い

『ヤバい、無理無理無理、吐く』

ライト「待てっ!ちよっタンマアア!」

センリ「うっさいわボケエエエ!」

〔バリバリバツ……〕

『うわっ!……』

やべえ、センリ寝起き怖い

うるさいから魔法ってどうよ?しかも上級魔法だし…

ライト「うわああ!……っ、アレ?雷は?」

あ、つい消しちゃったんだ

ライト「ちよっ、ケイ、雷は!？」

キャラ崩壊激しいなオイ

『…？さあ？良く解らないけど生きててよかったね…』

ライト「……………ああ、そうだな」

キヤラ戻したよコイツ

マジウザい、死ねや

……………実は数回堪えられなくて殺したけどさ

『センリ、怖かったね…』

ライト「ああ」

即答かよ、確かにトラウマものだよな

『今度からは静かにしようね……………』

ライト「……………ああ」

『それと、もう好きなだけ寝かせとこうね』

ニコッ

ライト「……………ああ」

ああ以外言えないのかよコイツ、詰まんないな…

しかも手合わせ出したよ、何かご愁傷様とか言ってるし、別に誰も死んでねえよ、ただちよつと置き去りにしようとしただけじゃないか（笑）

……………ヤバいな、どんどん素が腹黒に…でもないか、うん

「お客さん！アルタ町だろ、そろそろ起きて準備した方がいいよ！」

ライト「あ、ああ……」

へへ、アルタ町って言うんだ
楽しみだなあ……

ライト「…ケイ…センリなんだが…」

そんなにビビんなよな
いい加減俺の黒笑（笑）に馴れるよ

『はあ……ライト、センリを起こしてくれないかな？』

ライト「あ、解った

……センリ、起きろ」

センリ「あ”あ”？」

〔バキッ〕

ライト「えっ……」

今の音は俺がセンリを思いつ切り蹴った音だ

四天王とは言え人間、流石に寝起きは油断しているらしいな……

センリ「いつてえ……」

『センリ君、朝ですよ？外はもう、大分明るくなってきているんです、貴方は何時まで惰眠を貪る気なんですか？そんな事でよく悪を倒す

などと言えますね？貴方はまず、悪を滅ぼす前に、その眠気をどうにかすべきでは無いのですか？それとも貴方は、此処ですっと眠っていたのですか？眠りたいのなら、早くそう言ってください、今すぐ僕が、貴方を永遠の眠りに就かせてあげます』
ニコニコ

ノンプレスは無理だ、人間じゃなくなるしな

センリ「…すっ、スミマセンデシタ」

センリは泣いて謝っている、ライトも何故か涙目だ
センリはともかく、ライトまでとか

……：そういえばあそこまでキレたのは初めてだな、全然怒って無いけど

『…じゃあ下りる準備しよっか』

センリ&ライト「はいっ！」

……：先が思いやられるな、記憶消すか…？

ま、5分ぐらいでもとに戻るだろ、コイツ等馬鹿だし

「お客さん、着いたよ！」

ああ、やっとか

えつと…アルタ村だっけ？

ライト「やっと着いたな」

センリ「アルタ町へようこそ」だって、観光客もそこそこ来るらしいから、名物とかもあるらしいな」

…町か、おしかったな

『…まずは宿をとって、作戦会議だね』

センリ「うわ、名物、魔物煎餅だって、美味しいのかな？」

ライト「来た事ないのか？」

センリ「一人で、敵の本拠地と言っても過言では無い所に行けと言
うのか!？」

『……会議のためだけに使ってるっばいから、普段は居ないんじゃないの?』

センリ「あ……」

馬鹿だ、コイツやっぱり馬鹿だ

『無駄話してないで、早く宿を捜そうよ』

ライト「…すみません、宿屋を捜しているのですが…」

「えつ、私!？」

ばかやるおお！
何故に女に声をかける！？
しかも十代だよコイツ！？
知ってるわけ無い上にナンパと勘違いしてるんだけど！？

『……………』

センリ「ケイ！あつちに宿屋があるらしいぜ！」

『うん、二人で行こうか』

センリ「えっ、ライ…ナンデモアリマセン」

別になにもしてないよ？
ただ少し笑っただけだ

『はあ……………』

センリ「……………あ、此处だ！」

……………普通だ

宿屋って感じはするけど狙い過ぎてない、しかも看板の位置も目につくけど、良く見ないと解らない
普通過ぎて、逆に異常にも見えてきた……………

センリ「早くいこーぜー！」

『うん、』

ヤバいな、少し神経質になりすぎてる
楽しめる物も楽しめなくなりそうだ

センリ「三人部屋で7号室だったー」

そういえば、お金…

いつか、俺付き合わされてんだし、四天王なんだし金持ちだろ

『7号室だな……』

センリ、魔法でもなんでもいいから、ライト気絶させて連れてきて』

センリ「あ、はい、解りました…」

うん、やっぱり軽くトラウマになったのかな？

俺、知らね……

取りあえず、今日は作戦会議だけで終了にしよう

あんまり寝た気がしないし、馬車は疲れたし、早く休みたいな

うん、明日から頑張る

………できればね

最強三人組と長い秋休み？（後書き）

バスは車の方でした…

ケイ君を腹黒にする事が多過ぎて腹黒よりも毒舌みたいになってしまいました…

取りあえず、町に到着しました

肝心な戦いは、三日間ぐらいですかね

一日目に数人、二日目に残り、三日目にラスボス（ただし明け方）

明け方なのは、ラスボス倒した瞬間、太陽の光が…

というよくある（既にありすぎて使われてないですけど…）展開にしたいからです

シャーパーンはそのうち出したいですね、

伏線回収も大変なのに、「演技力」なんて伏線作っちゃいました

歪んだ王道を目指しているので、この先の展開が解る方は解るかも知れませんがね

最強三人組と長い秋休み？（前書き）

秋休み4日目です

ギャグ&シリアス

グロ無しですが、人が死んでます

最強三人組と長い秋休み？

秋休み4日目

昨日はベットで寝れて幸せな気分になれた、俺って結構手軽なんだな

…取りあえず、昨日たてた作戦を説明しておこう

あいつらが会議に使うのは、町民ホール

しかも、貸し切りじゃないから一般人もいる

そこで、一般人のふりをして近づき、センリが魔法で結界をはる
そして中で大乱闘

…俺としてはどうでもいいからOKしたが

ライトとセンリは自殺志願者なのか？

敵は10〜15人はいるんだぞ？

一人につき5人か？

馬鹿だろう、センリも修行してきたし、ライトも力を使えるようになった

でも、あいつらからしたら、だから？って感じだろうな

はつきり言って、俺は相手の能力は「なかったこと」にできないが
相手をなかったことにはできる

…つまり、俺ぐらいの能力を持った奴が一人でもいたら瞬殺されるってことだ

まあ、俺は大丈夫だけど

センリ「…ここが、敵の本拠地か……」

ライト「ああ……」

シリアスだけど町民ホールの前だし、子供も騒いでる

『…………早く行こうか』

町民ホールのなかは結構広い
奥の部屋が会議場らしい

センリ「そろそろ結界はるぜ？」

『うん…………』

ヤバい、緊張してきた
人、人、人

〔ゴクン〕

……………落ち着けねーよちくしよー

〔バンツ〕

センリが扉を乱暴に開けた

「誰だ!!」

そこには8人ぐらいの人間がいた

外見だけ見ると女3男5

全員10代後半ぐらいだが少女とオッサンがいた

少なくないか…？

ライト「貴様らに名乗る名などない！」

ライト、お前悪役みたいなこと言うなよ……

センリ「うりゃああ！」

センリ、不意打ちかよ…しかも上級混合魔法

「ぐあ！」

おとこ は いきたえた !

…… スマン、ちよつとふざけただけだ

俺もこつそり能力を使って敵の後ろにまわり、最小限の風の魔法で
殺す

……弱い、

今、敵は男2女3だ

おかしい……

オッサン「お前ら！何者だ！？」

あのオッサン、よく見りゃ誘拐犯のオッサンじゃん
でも、なんで抵抗しないんだ…？

……一つ、心当たりがある

『……貴方達は、異世界の者に復讐を誓った人達ですか……？』

オッサン「……！……そうだ

金髪と黒髪のお前、お前ら、あの時の……」

あゝ流石に俺はわかんねえか

取りあえず、こいつらは一般人で、トリップしてきた奴らに肉親とか恋人でも殺されたんだろ

ドンマイ

センリ「……お前達は復讐のために、関係のない者まで手に掛けたのか？」

センリ君、決め付けんよ可哀相だろ？

オッサン「……俺達は殺しはやってねえ、ただ雑用みたいな事とかしかしてねえ」

本当だろうな

でもまあ、復讐を誓って行ってんだから死んでも仕方ないよな

『……転生者達の場所を言えば、見逃してあげますよ？』

此処で仲間は売れねえとか言い出したら間違いなくライトかセンリに殺されるな

それにしても、ライト、やっぱりおかしいよな

力のせいかな、今まで普通に暮らしてた学生が人ひとり殺しているんだ

しかも、まるでなんともない事みたく俺だって罪悪感で苦しくて苦しくて、死にそうになるから、だれかに「押し付け」てんだ

おっと、話しがそれだな

幼女「ひつく、死にたく、ないよお……」

オッサン「っ……転生者は5人、一人はボスだ

此処から数十？離れた小屋にいて、報告を待っている、いつも俺が報告に行っているが数？辺りで一人が待機していて小屋まで行ったことはない

小屋にいると思うのは、あいつらが立ち去ったあとに行ってみたら、見たことの無い菓子や椅子が4つあったからだ」

うわあ、幼女のおかげでベラベラ喋るなあ

幼女、神様の使いじゃないの？

……違うっばいけど、なんか近い気がする、神様とか？

…………アハハ、

センリ「あいつらの能力で解ることは！？」

オッサン「俺と組んでた奴は瞬間移動とか意識通達とか……未来予知とかだな」

絶対〇憐チルド〇ンか？

男「…俺と組んでた奴は「ちゃくら」とか「にんじゅつ」とかって
言ってた」

100%NAOTOだな

女「私はわからないわ…」

幼女「ひっく、みかもわかんない…」

幼女はみかと言つらしい

反対から読むと……

泣き叫びたくなる…

女「ウチと組んでた奴は能力はわからなかったけど「ぷらす」とか
「のつといこーる」とか言つて、ウチを見下してた、カスとか平等
とかが口癖の女だよ」

……まさかの安心院さん？

まあ、本物ではないだろ

てか転生者なんだろ？長い年月を過ごしてんだろ？

安心院厨おそるべし、だな

ライト「他に特徴とかは？」

オッサン「いつもフードをかぶっていたから、わからない、性別す
らな」

男「男で武器に「くない」とか「しゅりけん」とかを使つてる、あ
と壁のぼつたり、水の上ののつたり」

女「外見女だけど男の人だったわ、あと力持ち」

男の娘かよ

女「髪が長くて、とっても顔が整ってたよ」

安心院さんだな

幼女「みかは、知らない、」

うっん、おかしいな

8人いて、マンツーマンらしくて、転生者5人で？
合わないだろ、流石ご都合主義者

ライト「…？何故五人なんだ？椅子は4つだったんだろ？」

ああ、そっぴやそうだったな

女「みかちゃんがボスと組んでるのよ

あのロリが（ボソツ）」

ライト「…聞いたところ、なんでもありの集団なんだろ？この」
がボスだったり…」

ないだろ…

いや、神様ならありえそう…

みか「……せーいかーい！」

神様ああ！？

センリ「まじで!?!」

『もうヤダ…(ボソツ)』

みか「結構いい勘してるじゃない?

くすっ、見付けられたご褒美にいいこと教えてあげる
既に、貴方達の中に「私」がいるわ」

安心院さああん!

ちよっ!キヤラかぶってるって!

センリ「なっ!?!何時から!?!」

みか「さあ?貴方達が初めて出会った時かもしれないし、つい5分
前の事かもしれないわ」

『……………』

みか「精々、寝首を掻かれないうちにね?

三日間だけ小屋で待っててあげるバイバイ」

……………消えた

神様のことだし、俺以外にもいるかも

誰得か知らないけど、全員とか有り得るよね

俺の超直感俺一人って言うてるけどね

『ひとまず、宿に戻るっか…』

センリ「ああ、そうだな…」

ライト「……………」

ありゃりゃ、ライト君、もしかしたら自分が？とか思っていないかな？
まあ宿についたら、フォローでもしてやるか

宿についた、取りあえずこれからどうするかだな

『どうする…？』

センリ「何が？」

うわ、イラついてんなあ

『三日待ってや』

ライト「素直に敵の言葉を信じるのか？」

『なら、皆もそんな目しないでよ、本当にこの中に敵がいると信じ
たの？』

ライト「……………」

センリ「俺達は俺達だ！あんなハツタリ信じてねえよ」

『それでこそセンリだね

都合のいいことだけ信じよう！

明日、本当の敵の本拠地へ！』

センリ「ああ！！」

ライト「…ふっ、そうだな」

俺が裏切り者なのにな

不思議だな、普通なら、罪悪感に潰されそうになるはずなのに
とっても楽しい

ああ

そういえば

最初から本当の友達じゃなかったしな

『今日はゆっくり休んで明日にそなえよ』

センリ「肉体より精神的に疲れたな」

ライト「確かにな」

皆、楽しそうに笑う

人ひとり殺して、人の生きがい、生きる意味を摘み取って
明日また人を殺そうとしているのに

楽しそうに、笑う、

最強三人組と長い秋休み？（後書き）

転生者、神様含めてたったの5人ですが
わざわざ危険に飛び込む人って実際はいないと思うんです
ましてや、転生したら数年間はなにも出来ないんですよ？
諦めて、悟って、精神的にはおじいちゃんおばあちゃんみたくなっ
て、達観するようになると思います

なんか無理矢理感がありますが取りあえず？終了

？での敵の名前は

ゴクアーク、サイアーク、キョウアー…

すみません冗談です

別に聖なる石が無くても倒せます

生き別れた妹もいません

トマトでもポテトでもないです

……元ネタ知らない方、本当にすみませんでした

最強三人組と長い秋休み？（前書き）

言うのが遅いですが

長い秋休みシリーズは暴力描写が少し入ると思います

残酷まではいかないと思いますが、数人の死亡、殴るなどがあります

すみませんでした

最強三人組と長い秋休み？

秋休み5日目

あと二日間の内に倒さないと学校がヤバい
どーだっていいけど

センリ「行くか…」

『そうだね』

小屋までは徒歩でいく
時間がかかるが多分大丈夫だろ

ライト「…？何か嫌な感じがする」

数時間ほど歩いたころライトが言い出した

センリ「ああ、なんかあるな…」

『……………』

ゴメン、全くわかんない
何？イジメ？

「ガサガサッ」

女？「よく解ったね？」

あれ？声が…

……あゝ、あの女が言ってた男の娘か
能力不明なんだよな…

男の娘「残念だけど、あんたたちは僕にかてないよ」

ライト「決め付けはよくないな」

センリ「ああ、お前が俺達にかなうのか？」

センリ、お前も決め付けんなって

男の娘「僕の能力はね、同じ能力を持ってないと絶対になわない
んだよ？」

あゝ、心当たりがあるね

センリ「言つてな！！」

センリが突っ込んでく

馬鹿だなあ

「ガンッ」

センリ「ガハッ……」

センリは地面に叩きつけられた、触れられずに

ライト「なにがおこったんだ…？」

男の娘「僕の実力は応用がいつぱい利くんだ、見張りも、防御も、攻撃も」

『チツ……本当、化け物ばっかだよな』

最初っからこれとかハードル高くない？

ライト「目覚めろ！俺の左腕！」

ライトが叫ぶと見るからに邪悪な黒い紫のオーラが左腕からでる

『キモ……(ボソッ)』

男の娘「なっ！まさかあんたも「念」を使えるのか!？」

やっぱりHUNOER×HONTERの「念」かよ

うくん…センリは強化が放出だよな…

ライトは…意外と操作、もしくは特質だな

男の娘は神様にもらったんだし、全系統100だろ、どうせ

ライト「念が何かは知らないが、今なら解る、センリを押さえ付けているものをどかせ！」

あれ？

俺、何気にいらなくね？

男の娘「ふんっ、どかしてほしいなら力づくでやってみなよ！」

バトルすた〜とお〜

……はつきり言ってる俺はいらな〜と思っ

10分後

ライト「はあ……はあ……」

男の娘「あはは、あんた、やんじゃん」

ライト「お前もな、」

あらら、友情目覚めちゃったりした感じ？

男の娘ドンマイ、敵との友情は死亡フラグだよ

男の娘「……僕さあ、家族を殺されたんだよね」

ライト「……」

過去を語りだすとは……いよいよ本格的な死亡フラグだ

男の娘「確かにさ、僕は転生したけど僕、転生する前って親がいなくて、僕は孤児院にいてさ、いっぱい子供達がいたんだ

僕は……自分勝手だとは思っけど、自分ひとりだけを愛して欲しかった

たんだ……」

ライト「……………」

男の娘「転生先では独りっ子でさ、死んだのは悲しかったけど、それ以上に嬉しくて

……………そんな幸せを、奪われたんだ」

ライト「……………っ！」

ライト、お前の家族構成いたって普通だったよな？なんで自分と同じみたく考えてんの？

幸せなくせにさあ

男の娘「でも、ね

僕はそいつに復讐を誓ったけど、そいつは、トリップしたわけでもない、普通の転生者だったんだ」

男の娘「更にさあ、その転生者の能力って、攻撃のみで、回復なんて出来なくて、簡単に、本当に、簡単に、流行り病で、さ……ポツクリ逝っちゃったんだって」

あゝあ、泣いちゃった

結構よくある設定だよな

男の娘「ほんと、笑える話だよな、」

笑えねえよ

重いよ、しかも何番煎じですか？

ライト「……………」

お前は人形かよ、黙りこくりやがって……

男の娘「……あはは、笑えないぐらいつまんなかった？

つまんないついでにさ、もうひとつだけ聞いてよ、僕さあ疲れたんだよね……………」

…これって、殺してくれって言い出すパターンじゃん
ライトが殺すか

ライトが改心させてから、他の敵に殺されるかだよ

「ガバツ……………」

センリ「……………」

あ、センリ起きた……………」

もしかして……………」

…いや、センリはそんな事しないって、流石に……………」

センリ「殺す（ボソツ）」

「バチバチツ」

問答無用で殺すパターンだったよ、アレか？なま なぜ殺した！
がみれるチャンスか？

ヤバい、ドキドキしてきた

「バチィツ」

男の娘「あ、え？……ゴフッ」

……グロっ……

てか、どっかで見たことあるなあ

ああ！

NORUTOの白が殺されるシーンだ！！

……見た目センリはかすってもいないけど、男の娘なら……似て無くはないかな…？

ライト「……センリ、」

あれ？意外と冷静だな

まあ、さっきまで殺し合ってた相手が、いきなり自分についてベラベラ喋りだしたような感じだし、しゃーないかな？

「バキッ」

ライト「なぜ殺したああ！！」

こええ！！

ヤバい、俺、ライトなめてたわ……

センリ「なぜって……敵だろう！？

お前、俺達の仲間じゃなかったのかよ！！」

短絡的思考うう！

なんで仲間だ仲間じゃないの話になってんだよ！
逆に驚いたわ！

ライト「…っ！！………」

言い返せよ…

マジ何なんだよ、新手的イジメなのか？

『二人とも、落ち着いて…仲間割れはやめようよ』

空気が重すぎて、腹黒ペースに持ってけない…
どうしよっかな？

センリ「…そうだな、きつと何か理由があったんだろ？」

は？

ライト「……ああ」

え？

マジ何なの？

センリ「そんなことより、先を急ごう」

ライト「……………」

ライトは結構普通だ…

センリ…？

センリ「ケイも行くぞ」

『え、あ、うん』

うわ、どもった

てかセンリ、どうしたんだ？

…困った時はドラえもん…冗談だって…
困った時の超直感！

……神様ああ…

…どうやら神様が、なんかこのタイミングの仲間割れってよくあり過ぎる、詰まらないって思ったらしくて
センリの思考を操って、ライトも不自然にならないように、ある程度、思考を操ったらしい

なんでもありの暇人だな、いや、暇神か？
どーでもいいか…

センリ「…？、ケイ、早く行こうぜ？」

『うん、解った…』

何なんだあの理不尽

真面目に今回の戦いで神様消しちゃだめかな？

せめて、二度と俺の認識できる範囲に入らないでほしい…

最強三人組と長い秋休み？（後書き）

転生者（神含め）、残り4人です
かなり無理矢理な終わりですよね……

一話、一人倒しておしまいにしてしまいすみませんでした
ですが多分、これからも一人一話になると思います

最強三人組と長い秋休み？（前書き）

勢いで書いてしまったので結構雑です

枕に顔を埋めてジタバタしたくなったら改變します

最強三人組と長い秋休み？

あれからまた歩くこと数時間、着いてもおかしくない距離を歩いたが、今だ着かない

『はあ……』

センリ「疲れたのか？」

『いや、別に……』

神様、時空間操作でもしてるんじゃないのか？
暇だ……

ライト「……っ」

センリ「誰がいるな……」

また？しかも俺、全くわかんないよ？

男「へえ、よくわかったじゃん？」

声のした先を見れば、木の枝に重力を無視して足で立っている男

男「俺は中沢玲斗、こっちではレイト・アリビアだな」

センリ「アリビア？珍しいファミリーネームだな」

変なところに食いつくなよ
てか、どっかで聞いた気がするんだよね……
しゃーないな、忘れて「なかった」事にしよう
反則なんて言うなよ？

……………あ

『一年の時のハルマ先生の親戚？』

センリ「ああ！ハルマ先生か！」

ライト「…誰なんだ？」

ライトの記憶力は非常に残念なんだな

レイト「ハルマ？俺の親父の名前じゃん」

ええ、ハルマ先生って外見20後半だったぞ、コイツどうみても
20代だよ？

ハルマ先生って若作りだったんだな

ライト「…無駄な話はやめにしよう」

ライト…話についていけないんだな…可哀相に

センリ「ああ、先生の子供だろうが関係ない、殺す！」

うん……

多分、てか絶対に神様のせいだろうけど、センリが殺人鬼にしか見
えないんだよね

敵は殺す、悪は殺す、

まあ、神様がそうさせてるんだろっけどさあ
敵もセンリも可哀相だね

「待つて！」

「……ここは僕がやるよ」

五人いるなら、

センリ ラスボス

ライト 脇役二人

俺 脇役二人だろ、脇役かどうかわからないけど

ゲームとか漫画とか小説とかだと

まずセンリ（主人公）はラスボス

ライトは友情（死亡）フラグと、最低野郎担当でしょ

裏切り者は大体、口が軽い奴とかなり強い奴と戦うだろ

口の軽い奴と戦った時に読者もしくはプレイヤーにだけわかる伏線をつくつく

で、かなり強い奴と戦ってラスボス前に大怪我、裏切った瞬間能力

で傷回復、んで実はボス補佐とかだよ

……俺、補佐とかじゃなくて黒幕知ってるだけなんだけどな…

神様の言ってた演技力ってコレ？

なんか変な設定つけられそうだな

レイト「んじゃ、早くはじめよう、まあ、俺的には纏めてきてもいいけど」

……あれ？

そっぴやコイツ、俺が内通者だって知ってるの？

知らないだろーな……、俺、ドンマイ

『じゃあ、いくよ』

そう言つて俺は飛び掛かる、無茶な鍛えかたしたから、身体能力はそこら辺のアスリートより高いぜ

レイト「結構速いじゃん」

相手が地面に下りた所に集中攻撃、

右ストレイト、かわされた勢いのまま右足で回し蹴り、かわされたので体勢を整えてから掌底打ち、さらに微力ながらも風魔法を纏わせる、また、かわされる、敵は左に避けたので左手で目潰し、かわされたまま裏拳、かわされる、相手がしゃがんで避けたから地面の砂を蹴り上げて目潰し、少しよろけた所でまた掌底打ち、今度は魔法無し、当たった、そのまま相手に体重をかけて押し出す、相手が倒れたところで……

「ぼふんっ」

……影分身…ヤバい、なんだか泣きそうだ……

レイト「ははっ！実は最初から分身でした」

え？マジで泣いていい？てか泣くよ？

『……ばーかばーか！……ひっく……』

影分身とか妄言をはいている男の前で16歳の普通の男子が座って泣いている…

なかなかシユールな光景だよな

センリ「えええ！？ちよつ、なんで泣いてんだよ！」

ライト「……………」

レイト「え、俺が悪いみたいじゃん！俺悪くないよ？」

ギャグに走ったら皆ついてくるとは……

ここまで引き延ばした挙げ句、能力で消したら可哀相すぎるよな？
どうしよう…

てかさあ、絶対身体能力の向上とかしてるよな、俺にハンディキヤ
ップありすぎて逆に俺が最弱だよ…

取りあえず、泣いた事だけなかった事にしよう、うん

『影分身？チツ……………』

レイト「俺は本体かな？分身かな？精々、頑張るとけよ」

何コイツ、超ムカつく

グーで殴りたい、グーで

レイト「コイツ、超弱いんじゃない」

『「ほっ……………うぜえんだよ（ボソッ）」』

しばらく戦ったけど無理、全く攻略できない

力は無理って事は、男の娘みたく話し合いで解決しましょう、ってか？

男の娘は復讐

たぶん強い奴は戦闘狂

こーいう奴は人質系だよな、特に、口の軽いチャライ男は妹

レイト「弱いくせに何で俺等に喧嘩売るかねえ…こんな奴等に莉亜夢が倒されたのか…」

りあむ？

あゝ、あの男の娘の名前？

まさかのドキュンネームだな

『…彼は復讐のためにそちら側にいました、貴方は何のためにしているのですか…？』

これで給料がいいとか言い出したら殴る、

レイト「…俺には、妹がいるんだ」

王道k t k r!

レイト「十数年前に行方不明、後には血の付いた服も見つかって、皆は魔物にやられたと思ってる
だが…本当はトリップしてきた奴が、力の加減を間違えて殺したんだ」

人質じゃないのか…

いや、きつと生き返らせてもらうのが目的なんだ！

レイト「俺は、確かに復讐もしたかった、だが…

この仕事を二十歳まですれば、妹を生き返えらせてくれるんだ」

後ろで息をのむ音がした

死人まで生き返せるからか？

転生者は死人なんだぞ、何でもありだろ

レイト「俺は、後数ヶ月で二十歳だ、だからここでお前等を……殺す！！」

レイトは忍術も使わずに突っ込んできた、馬鹿だろ

こんな時、漫画とかだったら、最後までとっておいた必殺技で大逆転、で、格好イイキメゼリフ言っただけで話終了！次回もお楽しみに！みたいな

必殺技？もちろんあるに決まってるじゃないか！

太ももに隠し持ってたダガーナイフ、小刀だって使えるんだぜ

『迷える憐れな者達に、一時の安らぎを…

漆黒斬殺歌！』

読み方？

「しつこくざんさつか」ですが、何か？

大丈夫、黒歴史なんて何時でも「なかった事」にできるから

レイト「がっ…はっ」

あいむ、ういなー、いえーい（棒読み）

疲れた……

センリ「お疲れ…」

ライト「……………（大切な誰かのために、関係の無い誰かを殺す、か）」

…ライト、関係ないかと思ってても、あいつ等が殺してんのって能力を使って悪さした奴らだけなんだよ？
現にセンリは殺されてなかったしな

……………え？

何でライトの考えてる事がわかるかって？
超直感だよ、最近なんか影薄いけどさ

センリ「早く行こうぜ！敵も後二人だし」

『三人だよセンリ』

ライト「……………（いや、裏切り者がいるとするなら後四人、だな）」

ヤバい、超直感使ったらライトが常識人に見えてきた

……………てか、ライトって結構一般人なんだよな

あゝあ、可哀相に

りあむも、レイトも、これから倒される敵も
センリも、ライトも、ハルマ先生も

てか、「俺」に関わった人全員、可哀相だな

……………もちろん俺も、十分可哀相だろ？

最強三人組と長い秋休み？（後書き）

ケイ君の必殺技

漆黒斬殺歌（笑）

内容

刃物で取りあえず急所を刺します、顔とか心臓とか、結構テキト―
です

「迷える憐れな者達に一時の安らぎを」以外にも色々あります

この後も何度か出していきたい技ですね（笑）

最強三人組と長い秋休み？

さて、あの忍者野郎と戦って既に数時間経過した
なのに、日も暮れないし腹も減らない
やっぱり神様なんかしたよ、コレ

『本当、何がしたいんだよ……（ボソッ）』

まあ、楽しみたいんだろうけどさあ

センリ「…世界征服とかじゃねーのか？」

『…は？』

いきなり何を言い出すんだこの馬鹿は？

センリ「いや、何がしたいんだって言ったから、世界征服じゃね？
って」

『ああ、成る程、センリが耳が良くて馬鹿な事だけはよくわかった
』よ

ライト「ぶっ……」

センリ「ライト、一発殴らせろ……」

ライト「……………」

センリ「無視すんなやああ！……」

なんだコイツ等、勝手にコント始めたぞ…面白いからいいけどさ…
取りあえず、独り言には気をつけよう、トリップ特典が知らんが、
聞かれたらまずい事もあるしな

… それにしても、コイツ等、全くと言っていいぐらいに緊張感の
カケラもないな、さっきまでシリアスだったのに
バトル以外は静かに出来ないのか？

… なら、後三回ぐらいしか静かなコイツ等を見られないのか…
三回？

『 あれ？ 』

… そう、俺は気づいてしまったのだ

敵は後、三人、ラスボス神様はともかく、普通のゲームとかなら、戦闘狂キ
ヤラと強いキャラが出て来る

多分、俺の相手であろう強い方は安心院さん（偽）だろ、で、戦闘
狂はライトが相手
そこで、だ

ラスボス残り三人、
神様、安心院さん（偽）、もう一人、
このもう一人だが、確実にあの日のフード野郎だろ

フード野郎は理論的で、どっちかって言うと、りあむみたいに仲間
フラグが立ちそうな位置だろ？

つまり、戦闘狂キャラがない…俺は失意のズンドコ、改めどん底
状態だ

ライト「…？ケイ、どうしたんだ？」

ライトが俺の気分の急降下を察知して声をかけてくれた
ライト、いい子だね、おじちゃん厨二なんて言って悪かったね（精
神年齢三十代）

まあ声に出して言った事はないんだけどな

『何でもないよ……』

戦闘狂キャラなあゝ

いっそのこと、安心院さん（偽）が実は戦い好きとか
フード野郎が操られてるとか、ないかな？……うゝん、超直感に聞
いてみよう

……うん、

現実とは常に、非情なものであるということが、身に染みて解った
よ……

……ついでに、俺の超直感がどうでもいい情報をゲットした、
数十？先に、噂をすればなんとやら、フード野郎がいます
どうでもいく無いね

センリ「……………」

お、センリがシリアスモードになったな

「…ザッ、ザッ」

……足音響かせてるけど、気配消してる意味なくね？

センリ「……あいつ、あの時のフード野郎！」

ライト「…知り合いか？」

ライト、すぐに気絶させられたとは言え覚えてないのか…
最早何かの病気が、障害なんじゃないのか？

フード「……貴方達が僕達の敵ですか？」

センリ「ああ、あの時は随分と世話になったよなあ……」

センリ、顔に青筋たつてる……

何かあったのか？

まあ、センリの事だし、自分より強い事に苛ついたんだろうけど

………？

そういえば、俺は全く成長してないのに、何でコイツが強いつて感じないんだ？

前は強そうだったのに、今は能力だけの奴そっくりだ、覇気？みたいなものが感じられない……

フード「あの時？……あ、アイルかな？

すみません、人違いですよ」

確かにフードなんて被ったら、人相わからなくなるけど、明かにお前だろ

センリ「え？マジで？」

信じちゃうのかよ……

フード「はい、多分アイルの事だと思います」

固有名詞だされても分かんねえよ、しかもアイルって誰だ、アール
ー村出身なのか？

センリ「マジか…スマン、人違いなんかして…」

フード「いえ、間違いは誰にでもある事ですし…」

てか、さっき敵なのか聞かれたのに、ああって返したのに！

何で、そんなに、お前等穏やかなんだよ！？

しかもセンリは油断し過ぎだろ！？

敵だっつったんだろ！？

フード「あなたがち、間違いとも言えませんし…」

「ガッ」

センリ「！…何すんだよ！？」

フード「油断する方が悪いんですよ？それに、貴方達は僕の敵かという質問を肯定したのは紛れもなく貴方達です」

俺とライトは肯定も否定もしてないけどね！

まあ、油断してたセンリ、もといあの大馬鹿野郎が悪いんだけど

センリ「あ”あ”？なら相手してやるよ！」

あゝ…

戦闘狂キャラもないし、もうどうでもよくね？

ガンバレー、俺は座って見てるから

フード「敵には容赦しませんよ！」

フード野郎がポーズを意識しながらフード（マントっぽい）をほおりなげた

俺はゲームのキャラかよ…、と心の中で呟き、フード野郎の顔を見た

『センリー、主に顔面をヤッチャッター（棒読み）』

センリヤライトならまだ我慢できた

だって、ウザりたいアホのナルシストと、ぼっちの根暗な痛い子だもん

だけどほんと、コイツは苛つくな

フードの容姿は…カラスの濡れ羽のような、ライトより綺麗な長めのセミロングの黒髪、そして黒色の、全てを見透かされている様な気になってしまっけど、何処か純粹を感じさせる、死んでいない美しい目、まだ少し、幼さが残っている顔の輪郭、どちらかと言えば色白と言われるが、不健康的ではないシミ一つない肌、低いが、形がしっかりしている鼻、ふっくらとしている赤い唇、更に、顔だちは十代後半だが悟りでも開いた様な、どこことなく哀愁を感じる雰囲気、マントの様なものを脱いだ事によって見えた服装は、俺達なんかを着ても似合わない、とてもお洒落な、だか落ち着いた感じのベージュを基準にしている、動きやすそうだが、正装にしても何ら差し支えない出来上がりのよく似合った服を着こなしていて、服ごしでもわかる引き締まっているが痩せてはいない程よく筋肉のついた体に、きつとあるトリップ特典

フード（フードなし）」では、これより、零〇を始めさせていただきます」

〇崎かよ……

どうせ、トリップ特典だから呼吸と同じように人を殺すような事はしないだろ、

氏ねよ完璧人間

さらに、露骨な厨二病邪気眼系要素が入ってないのがさらに苛つく

さらにさらに、僕って表の俺のキャラ被ってるのが苛つく

さらにさらにさらに、黒髪黒目って俺とライトと被ってるのも苛つく

さらにさらにさらに（ry

……つまり、アイツの存在自体が、俺を苛立たせる原因なんだ
俺は誓うぞ、全部終わったらまず、アイツを消そう

ライト「……、どうかしたのか？」

ライトが話かけてきた

ポーっとしてただけだが………センリ達は？

『あれ？ゴメン、なんか白昼夢みてたかも』

ライト「大丈夫か！？変なキノコでも食べたのか！？」

マジックマッシュルームみたいなものの事か？

てか、さあ

『質問にはすぐに答えるべきだと、少なくとも僕は思っただけどさ

あ…ライトは？』『ニコッ

ライト『ソウデスネ…

あいつら、戦いながら走り始めたんだ、追いかけるにも…あゝ…
うん、白昼夢が…』

どうやらアイツ達は、戦いながら何処かへ行ってしまって、追いか
けようと思ったが、俺がぼーっとしていたので、起こしたと…
完全に俺が悪いな

『あゝ、ゴメンね』

ライト「ああ…取りあえず、追いかけるか」

『うん…そうだね、何処に行ったの？』

ライト「…あれ？」

まさかの迷子？

…いやいやいや！センリは一人、俺達は二人だから迷子なのはセン
リだよ！？」

決して、俺は迷子ではないんだからな！

『これ以上バラバラにならないように、二人で捜そうよ…』

ライト「ああ…」

多分、見つかる頃にはフード野郎も倒されてるだろう

『まずはこっちを捜そう』

俺達は奥へと進む…

最強三人組と長い秋休み？（後書き）

一人につき一話だと宣言しておきながら
倒せてなくてすみません

ネタバレな言い訳ですが

今回出てきたフードはもう倒された（描写なしです）設定なので

一応、一人倒してます

すみませんでした

最強三人組と長い秋休み？

俺達は

歩いている

奥へ

奥へ

奥へ

『見つかんねーよ、コノヤロー』

センリがない

しばらく進んだら木が傷ついたりしたから、それを頼りに進んでいる

音ぐらい聞こえてもよくないか？

ライト「！いた！」

『ほんと！？』

ライトは能力を使ってセンリ達を捜していた、本気をだせば1・5？ぐらいまでわかるらしい

『距離は？』

全力疾走しながらきいてみた、はっきり言ってキツイ

「7、800?ぐらいだ!」

なんか怒鳴られた

まあいいや、とにかく体力が持つかが心配だ

『はあ……はあ』

うん、疲れた

ライト「…! センリ!」

顔をあげてセンリを視界にいれる

……ドンマイ、

センリは負けたらしい、敵に足蹴にされていた、まあ解ってたけどね、敵は服がボロボロだけど無傷、んで、あの時と同じプレッシャー

フード（フードなし）「やはりお前等か…ユキトを傷つけたのは…」

また日本名出たな、ゆきとかあゝ

雪斗、かな?

ライト「誰だ？」

うん、ライト、間違っではないよ？

確かに、ゆきとって名前とアイルって名前から二人は別人って事がわかるよ？

ただお前の記憶力が残念なだけだよ、気にするな、してないだろうけど

アイル「私の名前はアイル、やはりお前達は、あの時に始末しておけばよかった」

睨まれた、あの時の包帯男だって確実にばれてる、どうしようかな？
まあ、そんな事実なかった事にしちゃえばいいんだけどさ

アイル「ユキトを傷つけたからには……殺す！」

「ガッ……」

センリ「まだ……まだ、俺は終わってねーぜ？」

『センリ！』

なにやってんだよこのボケが！

ちなみに照れ隠しとかじゃない、だってセンリの傷をなかったことにしたの俺だし、感謝しろよ

アイル「まだ生きてたのか……今度こそ、しね！」

センリ「やだね！」

俺は約束したんだ！皆で帰るって！」

ちなみに、俺にはそんな約束した覚えがないので多分、レイアと約束したのだろう

そーいや俺、死亡フラグ立ってんだよな…

…いや！学園ものの裏切り者の死亡フラグは生存フラグでもあるんだ！

って死んでも誰かに押し付けるけどさ

ライト「センリ！」

『うわっ！』

ライトがいきなり大声だして走りだした、大丈夫か？
頭が

「ガキッ」

アイルの攻撃をライトが受け止めた音が響く
響く、って両方生身でぶつかって、何であんな金属ぶつけ合ったよ
うな音がするんだよ…

ライト「ここは俺に任せて先に行け！」

いやいやいやいや

今、ここでその展開？

いや、別にいいんだけどさ、こっちは楽になるしね？

…って、どう考えてもライト死亡ルートだろ

秘めた力解放

死んでも止める！的な展開

ライト、死亡

アイル、ギリギリ生きてるけど用済み〓死亡フラグ

センリ「ケイ！グズグズすんな、ライトがくれたチャンスなんだ！」

お前って結構薄情だよな

『…うん』

ひっかかる部分はいくつかあるけど、まあいいよね
さらばライト、君の死は無駄にしないよ！多分！

俺は胸に残る思いを無視し、走りだした

……まあ、ひっかかる部分って、こんな場合残る奴って大概魔改造
されるよね〜とか
味方が敵になる時、三人中二人もいたらややこしいな、とか
こつこつ時は、俺がセンリに情がうつったとかで神様を裏切った瞬間、
魔改造されたライトに殺されるんだよね
って感じる事なただけけどね

最強と準最強（前書き）

軽いネタです

最強と準最強

ライトを見捨てて数十分、どうせ次の敵に会うのは数時間後だろ、
と思い

俺は少し、悪戯をしようと思う

『セリリはさ、この世界にトリップして来たんでしょ？』

「まあな」

セリリは気付いてないが、セリリは俺達に異世界から来たとは言っ
たが、転生、トリップなどは言っていないんだ

『あんな能力、セリリは使えるの？』

「…無理だね、俺の能力は多分、魔力の増加とかだな」

『なんで？』

悪戯、と言ったが俺はずっとこれが知りたかった
魔力の増加？身体能力の強化？

そんなのをお願いするのはファンタジー系携帯小説の中だけだ
それに…もう一年以上前の事だが、なんでこいつはマイケル・ジャ
クソンを知らないんだ？

少なくとも、名前を知っていたら何らかの反応を示すはずだ
名前を知らないなんて、同じ世界から来たならありえない

同じ世界なら、な

「…なんでって、これが俺の能力だしさ」

『彼らは、自分の能力の名称を知っていたよ？
なんでセンリはあんな能力にできなかったの？』

「……………」

『……………、まあいいや、じゃあさ、あの能力はどういうものか知ってる？』

例えば、センリの世界の書物に記されていた、とか』

「いいや、全くわからないな

確かに漫画の技みたいだよな、最後の敵の名前はライトだったりね」

ちなみに、この世界に漫画なんてない、この事実を知った日、俺は泣いた

…それにしても、危ない発言だな、裏切り者はライトって言ってるみたいだぞセンリ

……………ライト？

『なんでライトなんだ？』

「あ、別に悪気はなかったんだよ？ただ、漫画の敵がライトって名前前で主人公がリュウザキだったから覚えてたんだ」

……………DEATH NOTEのことだよな？

主人公が、L？

『どんな漫画なの？』

「極一部の人間しか素顔と本名を知らない天才の…探偵？主人公がとある事件に首をつっこむんだ、その事件は犯罪者が次々に心臓麻痺で死ぬのは、実はある能力のせいで、主犯がライトって名前なんだ」

… DEATH NOOEのL視点の物語なのか？
でも、Lは死ぬよな？

『ある能力って？主犯って事は犯人は複数いるの？オチは？』

「あ、ああ…」

オチは全巻よんでないから知らないんだが…

能力は死神から貰ったノートと目でノートに顔を知ってる奴の名前を書いたら死ぬんだ、んで目が…なんかの条件があつて…？忘れた…取りあえず、ノートだ

んで、犯人は…あゝ、主人公はリュウザキってんだけど、視点がとぶんだよな、で、確か犯人ばい奴、犯人確定の奴とかいんだけど…結構いた気がするけど、主犯のライトしか知らないな」

『へ〜、どうもな』

「？ああ」

センリは同じ世界じゃなく、平行世界から来た事がわかったな
それにしても、その世界にはマイケル・ジャクソンもないし、N
AUTOもHUNTER×UNTERもないのか
多分、絶対可憐チルドレンもめだかボツ〇スもないよな

酷く詰まらなさそうな世界だなあ……

最強二人組と平等な偽者（前書き）

あっさりしてます

やり過ぎました

最強二人組と平等な偽者

俺の悪戯と言う名の質問から数時間

……ライト達のいた方から爆発音が聞こえた気がしたが、センリが無視したからほうつておいた

そろそろ、敵がきてもいい頃なんだけどな…

取りあえずフードは置いておくとして

残る敵は神様と……安心院さん（偽）か…

マジで一京以上の能力持つたら太刀打ち出来ないよな

本当に、少年ジャ○プのバトルマンガも真っ青なインフレだよね

？「待ちなよ」

……後ろの方から可愛らしい声がする

振り向いちゃダメだ振り向いちゃダメだ振り向いちゃダメだ

センリ「なんだ？」

ばかやるおおお！

？「はじめまして、僕は安心院なじみ、

親しみをこめて安心院さんあんしんいんと呼びなさい」

振り向いた先にいたのは、容姿端麗な女子

髪は白で巫女服のようなものを着ている、ネジは刺さっていない
安心院さん（偽）と呼ばせてもらおう

セシリ「誰だお前？……つて、敵、だよなあ」

セシリが顔を赤らめながら言う、騙されるなよっ！

『セシリ、レイアに殺されるよ』

俺が言ったら顔がみるみる真っ青になる、何があったんだ？

安心院（偽）「何があったかは知らないけど、君たちは僕にとって邪魔なんだよね

立ち去る気は無いかい？」

『無いね』

安心院（偽）「……そっか、なら……此処で死んでよ」

「ガンッ！」

『っ！』

安心院さん（偽）はかかと落としをしてきた
随分と好戦的な安心院さんだなオイ

『セシリ！フォーメーションBだ！』

セシリ「フォーメーションBって何だよ！？初めて聞いたんだけど
！」

少しふざけただけなのになあ……

安心院（偽）「わあ！今のをかわすなんて凄いね！

たとえ今の攻撃は僕の力の数百分の一程度で、更に僕には一京を超える能力があるうとも、今のようにかわし続けるだけでも、もしかしたら僕に勝てるかもしれないね！」

苛つくなあ…

てかマジで一京以上の能力もってるのかよ…

センリ「チツ、手加減はしないぞ！」「雷電雷火^{らいでんらいか}」！」

…日本には、人のふりみて我がふり直せという素晴らしい諺がある

…漆黒惨殺歌はなかった、恥ずかしいよおおおお！

「ガガガッ」

安心院（偽）「おっと、危ないなあ

そんなのをくらったら、たとえ人外の僕でも、痛いじゃないか？」

『普通は痛いじゃすまないだろうね』

雷の威力は強く、更に二次災害（火事）を巻き起こしてる

相手は無傷だけど…

どうしよ、てか、漫画でも倒したの見てないし、マジどうしよう

…能力だけでも使わないでめらおうか

俺は安心院（偽）にシャープペンを十本ほど投げた、ペンとは思え

ないほどよく飛ぶ

安心院（偽）「変な武器をつかうんだね、ハンデとして、受けてあげるよ」

「ブスブスッ」

当たった、が、痛くなさそうだ

安心院（偽）はシャープペンを抜かずにそのままにしている

安心院（偽）「じゃあ、いくぜ？」

.....

俺達の間には沈黙がながれた

きつとなんかのスキルを使おうとしてたんだな、ドンマイ

『センリ！なんだか知らないけどチャンスだよ！』

センリ「え！？おま、今なんかしたよな！？」

『はやくしろ』『ニコッ』

センリ「雷電雷火ああー！！」

安心院（偽）「うぎやああー！！」

.....やべ、あっさりやり過ぎた
まあ俺が、面白かったしいつか

『よし！行こっか！』

センリ「……う、うん」

奥へむけてGO！

今の戦いはなかった方向で

……安心院（偽）を生き返らせたりはしないけど

最強二人組と平等な偽者（後書き）

ありがとうございました

最強と急展開（前書き）

サブタイトルのとおり

急展開です

急いで書き上げたので、矛盾点などがあるかも知れませんが

最強と急展開

あれから数分

やっと小屋らしきものが見えてきた、後残ってる敵は神様と、アイ
ル？と、ライト（仮）
んで、俺か

「コンコン」

センリがドアを叩く、変なところ律儀だなあ

「……ガチャ」

ノブを回すと簡単にドアは開いた、中はいたって普通の山小屋だった

……ある一点をのぞいて

『……これ、魔法陣？』

センリ「…わからない」

四天王役に立たねーな

ゲームとかだと、この小屋が回復&セーブ地点、魔法陣はボスのい
る所にとばしてくれれる感じかな？

センリ「とりあえず、行ってみよ」

『あ、』

魔法陣が光り、センリが消えた、ご愁傷様
展開も読めてきたし、そろそろ暇だし、帰ろっかなあ

「ガシッ」

神様「ご愁傷様？」

語尾にハートマークがつきそうなら可愛いらしく、いたわれない、いたわりの言葉を言ってくれた

『ええ〜…………』

「センリSide」

魔法陣が光ったと思ったら、俺は神話に出てきそうな神殿のような所にいた

足元を見るが魔法陣は無かった

え〜…………

「どーしよっか…………つか、ケイは？」

10分近くまつたが来ない、何があったんだ…?

悩むが、俺には進むしか無いので、果ての見えない（まあ薄暗いだ

けだが(通路を進むことにした

暫く歩いていると、俺の身長の数倍以上ある扉に行き着いた

「でっけーなあ……」

「コンコン」

とりあえずノックする、返事はなかったので開けてみる

「……………ぐっ……」

……………開かない、どうしようか……………ん？

「…ギイー」

…引いたら普通に開いた、俺カッコ悪っ！

中に入ると艶っぽいお姉さんが、玉座のような椅子に座っていた

「まあ、よくきたじゃない？

お持て成しも出来ないけれど、ゆっくりして行ってね？」

姿形が違ってわかる、みかちゃん、もとい全ての元凶

「てめえ……………」

「怖い顔しないでちょうだいよ、あら、そつえばお友達はどうしたのかしら？」

ああ、一人は友達じゃなかったんですっけ？」

白々しく俺が何故一人なのかを聞いてくる

「…………二人とも、俺の大切な友達だよ！！」

「…………それが、片方（どっちか）は違うんだ（よなあ）
なあ（ねえ）、どっちだと思う？」

俺が叫んだとたんに二人分の声が響く

二つともよく聞き慣れた、俺より少し低い声と男にしては高いが
くまで普通の声

声のした方向に振り向いて見ると、ライトとケイがいた

「ライト！ケイ！」

「ああ（うん）、そうだ（よ）、でも、違う（んだよなあ）」

「…………違、う？」

二人が操られている事はわかる、だが、間違いなくライトとケイだ

「ああ、違（う）と（）って（）言うのは、

片方は裏切り者だって意味だ（よ）」

「…………嘘だ！」

おい、お前、二人を今すぐもどせよ！」

「はあ、センリ、何も全てがお前を裏切ったんじゃない、ライトかケイ、どちらかは本当の友達なんだ
どちらが、本当の友達かを言い当てれば、転生者もトリッパーも全てこの世界から追い出してやるぞ？」

神様の言葉は、俺の思考をぐちゃぐちゃに混乱させるには十分すぎた
嘘かもしれない、本当かもしれない、約束を守らないかもしれない、
本当かもしれない
ぐるぐると頭が混乱する

「……………」
「じっくり悩めよ、

別に、間違えたらこの世界を壊すだけだから、心配するなって」

目の前の、俺の言った通りヒゲをはやした神様は、ニヒルな笑みを
浮かべてそう言った

「……………」
相手は神様だ、かなう筈がない、どうしよう、どうしよう
ここは、どちらかを選んだほうが良いのだろうか？
が、間違えば世界滅亡、神様ならそれくらい出来そうだ

「……………」
「迷ってるか？」

ならヒントをあたえよう、」

罨か？

少し身構えてしまった

「何も攻撃しようとしてるわけじゃない

ヒントは……そいつは転生者だ」

「……………」

はっきり言おう、自惚れではないが、俺は頭はいい方だ

神様に使えている、裏切り者と言うからには、何かしらで神様と深く通じている、深い関係となると、必然的に異世界から来た奴になる

つまり、そんなヒントは全く役にたつてないのだ

「あはは、その顔、もしかして期待とかしたか？」

俺は神様を無視して考えることにした

〔1時間後〕

大分頭もスッキリしてきた、が、そんな事言ってる暇はない

全くわからないのだ

ライトは、親と離れているらしいし、不思議な能力を使う
ケイは、親がいないし、俺の知らない言葉（難しい、とかじゃなく
て横文字のだ）を使う

俺達は仲は良かったし、友達だったが一緒に過ごしたのは一年に満
たない時間なのだ

「センリ、1時間近くなやんでるぞ」

神様が口を開いた、もう1時間近かくたつたんだ

「そろそろ暇だから、あと5分以内に決めろ」

暇、

俺の脳内には5分という言葉より、その言葉が響いた

「はい、終了

決まったか？」

「ああ、裏切り者は…

……ライ」

「裏切り者は僕だよセンリ」

俺が言おうとすると、ケイが喋りだした

「オイオイ、楽しみがなくなったじゃあないか、ケイ」

「アドリブでライトに合わせてやったのに、1時間もつつ立たせとくあんたが悪い」

「えあ…裏切り者は、ケイ？」

「「セーかぁーい

つてハモるなよ！」」

神様とケイが声を合わせて喋っている

「いやー、それにしても僕があそこで言わなかったら、この世界、滅んでたよ？」

「センリ、感謝してね」

「その前に、俺の楽しみを奪った事について謝れよ」

何時もの調子で喋りかけてくるケイ、和やかに会話する神様、少し前まで世界がかかった大事な取り引きをしていた筈なんだ

「…ザクッ」

「が、は…ケイ？」

神様が、ケイに刺された

俺はまた、突然の事に混乱する

「…バタツ」

神様が倒れた、すると横に立っていたライトも倒れた
何故、ケイはこんな事を……？

「あゝ、神様は死んだ、てか死ぬんだね

センリ、今まで楽しかった、ライトにも伝えといてくれ

あと、これ」

ケイは封筒を俺に渡した

何故、何が起こったか、全く理解ができない、理解力が追い付かない
が、一つだけわかった

「ケイ……死ぬつもりか？」

これから死ぬつもりの方の顔なんて見たことないが、何故かケイが
死ぬつもりに見えた

「あはは、僕ってそんなにわかりやすい？

……詳しくは、それ（封筒）を見ればわかるから、僕は最後に神様
に貰った能力を使って、神様とともに逝くよ

じゃーね」

何時も通り、まるでまた会えるみたくサヨナラを口にしたが、ケイ
は泣いていた

泣いた姿は初めて見たが、ケイは泣きながら笑っていた

「……後の事は任せとけよ、」

本当はもっと気の利いたことを言いたかった、封筒を見るのではな

く、今本人に聞きたかった
が、出来なかった

「じゃあな……」

俺がそう言った瞬間、神様とともにケイは消えた

部屋のすみには魔法陣があった、俺は無言でライトを背負い、魔法
陣にのった

最強と急展開（後書き）

センリSideで完です

ちなみに、神様の時空間調節のおかげでバトル終了は
秋休み5日目の夕方辺りです

準最強からの手紙（前書き）

シリアス？

こつこつの書くの苦手ですね

準最強からの手紙

「う……ん？」

ライトが目を覚ましたらしい

「センリ……此処は……」

『宿屋だよ、戦いは、もう……終わったんだ』

「え……」

俺は今までの事をライトに話す事にした

『……林を抜け、町につき、そして宿屋について15分ぐらいでライトは目を覚ました、んで今に至るって所かな』

「……センリは、封筒を確認したのか？」

『……いや、まだだ、取り敢えずお前も目覚ましたし、今から読むぞ』

「ああ」

『え〜っと…』

…きつと、この手紙を読んでもらうセンリ、ライトへ

これを読んでるって事は、僕は姿を消したりしてるだろうね（笑）
まあ、裏切り者を取り逃がす方が悪いんだよ？

…まあ、紙に限りがあるし、ふざけるのも程々にしようか
わかってるだろうけど、裏切り者は僕だ

僕は転生者なんだけどね、他の転生者よりも、貰った能力が強力だ
っただ

…いや、1番神様に近い転生者になったんだ

神様と僕は表裏一体、神様に近い人間の僕と、人間に近い神様
これがどんな能力かは、明確に示せないけど、これだけは言える

この能力の利点は、僕が神様を殺せて、神様は僕を殺せるようになること

だから僕は神様を殺した、皆の前から姿を消すのは罪悪感からかな？

…まあ、どうせ皆は笑って許してくれるんだろうけどね

センリ、ライト、多分僕のことは皆、覚えてないと思うんだ
これは僕の能力でしたこと、暫くは混乱するかもしれないけど、僕の最後の我が儘だと思ってよ

…紙もそろそろ無くなってきたし、どうせ僕は皆の前に二度と姿を見せないから

最後に一言だけ

二人とも、有り難う、楽しかったよ

……………」

「この手紙を書いた時は……………」

『死ぬってわかってて、なのに、死ぬなんて内容書かれてないんだな……………なにが罪悪感だよ、お前の考えた通り、お前がこの場にいたら笑って許してやってたよ!!』

「落ち着けよ……………」

『落ち着けるか！』

せつかく、レイアに皆で帰るって言ったのに！

皆は僕のことを忘れている？

ふざけるなよ!?!』

俺は激昂していた

なのに、頭の一部分は冷静に働いている

その証拠に、暴れ回るような真似はしない、ただ、声を張り上げてライトに感情をぶつけていた

「……………」

『…ハア……………』

ライトが黙って聞いている内に、だんだんと落ち着いてきた

「……帰るじ」

『……』

声は出さずに頷いて返事をする

そうだ、帰ろう

そして今あったこと、この手紙をレイア達にも読んでもらおう

あの日から二日後、もうそろそろ俺達の町に着く頃だ

俺達が必要以上の会話をすることはなかった

町に着き、馬車から下りるとライトが言った

「本当に全て終わったんだな」

帰るまでが遠足

そんな言葉が頭にうかぶ

『まだだな……』

「……？」

『ケイのこと、皆に伝えてないだろ?』

「……………ああ、そうだな」

俺達はまず、家に帰る事にした

俺は休み中も寮を使っているので学校へむかう

ああ、レイア達にはなんて説明しようか

そんな事をずっと考えていたせいかな、学校で言われるまでずっと気づかなかつたが

神様が死んだせいで、この世界にはまだまだまだ異世界から来た奴らがいる

俺達の戦いはこれからも続いていくんだ…

準最強と神様（前書き）

なんかケイ君が鬼畜になりました

準最強と神様

神様「あゝあ、王道なんて詰まんないもつと面白いシナリオ用意出来なかったの？」

俺は神様の前にいる

神様は俺がアドリブで刺したにもかかわらず、死んだふりをしてくれた

まあ、どうせ頭の中を読んだだけだろうが

神様「あゝしかも何なの？」

センリのあの、戦いはこれからも続くゝ的なやつ

王道、使い古し、在り来たり、月並み、陳腐」

『はあゝ、王道なのは認めるけど、その他は酷くね？

王道だからこそ良いんだよ』

神様「ええゝ」

『つーか、神様が本当に面白くないって思ってたなら、今頃俺はこの世にいねーよ』

神様「なーんだ、ばれてたか」

『…………はあゝ』

あのシナリオは俺が考えたものだ

馬鹿つーか、パニック状態の人間なら巨大な敵が死んだらその他が強くて目がいけないもんだし

それにしても…

神様「死ぬつもりか」

『ぶっ！アハハ！』

センリ完つつ壁に自分の世界にいたよアレ、自分に酔ってたって！』

なにも無い空間に、俺の笑い声が虚しく響く

神様「笑ってゆるしてやったよ！」

『アハハハハハ！』

さっすが神様、声真似うますぎ！』

ああ、でも

『……………ライトって結構薄情だなあ……………』

笑い声が止む、俺、結構傷つきやすいんだよ？

神様「アイツなら夜、枕を濡らしてたよ（笑）」

『げ、マジで？』

それはそれでキモいな

あ、そういえば

『王道にヒロインだけは記憶を残してんだけど、どう思うっ？』

神様「テディア・アミュレスだろ？」

王道なんて言うならきっかり一年後にでも帰ってやれよ

三日後自殺したぜ？」

『うわあ、愛されてる自覚はなかったんだよ
てか、一年後って…三日で自殺しちゃったんじゃない』

神様「細かい事は気にするなって」

『全然細かいくないだろ』

神様「まあいいじゃん、久しぶりに面白いものが見付かって、テンション上がってたよな」

『俺のこと？』

神様「うん」

速答かよ、死ぬまで遊ばれそうだな
俺も死ぬまで遊ぶんだろうけど

神様「大丈夫だよ、死なせないし」

『ならせめて不老にしてくれないかな？』

ジジイとかやなんだけど、若いうちに死にたい派なんだけど

神様「おっけ、まだまだ遊ぼうか」

『休みはくれよ？』

神様「んじゃ、週末は休みで」

『この場所に、時間の概念なんてものがあつたんだな』

神様「次は何処にするか決めないとね」

『なら、め〇かボックスで』

神様「よし、報酬決定」

報酬？

神様「今から私の事は店長と呼びなさい！」

いい歳してお店屋さんごっこするとは夢にも思わなかったよ

神様「ばんばん働いてね」

『はいはい』

こんな感じで

俺達の戦い、改め

俺達の迷惑な遊びはこれからも続く

ご愛読ありがとうございました

『なーんてね』

準最強と神様（後書き）

此処まで外道にする気はなかったんですよ…

取り敢えず、これで完結にするつもりです
有り難うございました！

神様店長の神様講座

おまけ（前書き）

おまけ

会話文だけです

神様店長の神様講座 おまけ

『神様、ちよつといいか?』

「店長と呼びなさい、それと敬語も!」

『……店長、ちよつといいですか?』

「なんだ?」

『なんでわざわざ人を転生させたりするんですか?』

今回のアルバイトだって、神様がやったら一瞬でしょう?』

「ふむ、いい質問だ」

我々が人を転生させたり、他の世界に送るのはな、なにもその人間の行動を見て楽しむわけではないのだ」

『?どーゆーことですか?』

「確かに人の行動は面白い、だが、別の理由もあるのだ」

転生をさせたりすることによって、神が人に関わると神と人の間には絆が生まれる

神はその絆を利用して、人のプラスの感情のみを共有するのだ

それによって、人が未知の世界で喜び、楽しんだことが神にも伝わるそのプラスの感情は、神にとっても筆舌に尽くしがたいほどの喜び

と昂揚感を生む

だから神は人を送るのだ」

『じゃあ、お気に入りとかって、ただの好みなんですか？』

「いや、確かにそれもあるだろうが

人とは素直に喜ぶことの出来ない生き物でな、いくら望んだ異世界に行こうが

前の世界をまた望み、その世界を否定する

そんななか、そこが何処だろうと楽しみ、悲しまず、過去ではなく、今と未来を貪欲に求めるもの
そんな者がお気に入りを選ばれるのじゃ」

『…せめて何時でもプラス思考だと言って欲しい、貪欲って……』

「ふん、知りたいことはわかったか？」

『ああ、ありがとうございます』

「店長だ！」

『はいはい、ありがとうございました店長』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9640s/>

なんだかんだで準最強

2011年9月29日04時18分発行